

令和5年度

第30回

世田谷区小学生海外派遣事業

報告書

(オーストラリア・オーストリア)

世田谷区教育委員会

目 次

| | | | |
|---|------------------------|-----|----|
| 1 | 小学生海外派遣事業について | ・・・ | 2 |
| 2 | あいさつ | | |
| | 世田谷区教育委員会 教育長 渡部 理枝 | ・・・ | 3 |
| 3 | 30回目、そしてコロナ禍再開1年目にあたって | | |
| | オーストラリア派遣団 団長 井元 章二 | ・・・ | 4 |
| 4 | 充実の海外派遣事業 | | |
| | オーストラリア派遣団 団長 廣石 雄司 | ・・・ | 5 |
| 5 | 小学生海外派遣団員名簿 | ・・・ | 6 |
| 6 | 学習会等日程表 | ・・・ | 7 |
| 7 | オーストラリア団 報告 | ・・・ | 9 |
| | (1) バンバリー市について | ・・・ | 10 |
| | (2) 日程表 | ・・・ | 11 |
| | (3) 写真 | ・・・ | 12 |
| | (4) 児童・引率報告書 | ・・・ | 14 |
| 8 | オーストリア団 報告 | ・・・ | 35 |
| | (1) ウィーン市 ドゥブリング区について | ・・・ | 36 |
| | (2) 日程表 | ・・・ | 37 |
| | (3) 写真 | ・・・ | 38 |
| | (4) 児童・引率報告書 | ・・・ | 40 |

1 小学生海外派遣事業について

1 目的

- (1) 海外派遣小学生として、訪問国の生活及び文化や伝統について自分の目で確かめ肌で体験し、国際的視野を広める。
- (2) 外国で生活する人々や現地校の子どもたちとふれあい、人々の生活や文化に対する理解を深める。
- (3) 海外派遣を機会に、生活習慣の違いや日本の文化・伝統を見つめ直し、外国との違いに対する視野を広める。

2 令和5年度 事業概要

(1) オーストラリア団

- ◆ 日程：令和5年11月2日（木）～11月10日（金）
- ◆ 団員：統一公募の選考を通過した、区立小学校第5学年
- ◆ 派遣先：オーストラリア パース市、バンバリー市
- ◆ 人数：16名
- ◆ 内容：①学校訪問及び現地小学生、地域住民との交流
②訪問国での自然、産業、文化、歴史等の学習
③市長表敬
④訪問国でのホームステイ

(2) オーストリア団

- ◆ 日程：令和5年11月4日（土）～11月11日（土）
- ◆ 団員：統一公募の選考を通過した、区立小学校第5学年
- ◆ 派遣先：オーストリア ザルツブルク市、ウィーン市ドゥブリング区
- ◆ 人数：16名
- ◆ 内容：①学校訪問及び現地小学生との交流
②訪問国での自然、産業、文化、歴史等の学習
③区長表敬

2 あいさつ

世田谷区教育委員会 教育長 渡部 理枝

世田谷区では、あらゆる国や地域の人々との交流や多様な文化に触れる機会を通して、語学力のみならず、相互理解や価値想像力、社会貢献意識などを高め、日本人としてのアイデンティティを持ちながら、地球規模の視野をもち、グローバル化する社会の持続的な発展に向けて学び続ける人材の育成を図っています。

国外における事業はコロナウイルス感染症対策により中断を余儀なくされておりましたが、この度、姉妹都市提携を結んでいる西オーストラリア州バンバリー市、そしてオーストリアのウィーン市ドゥブリング区の2都市との交流事業を4年ぶりに再開させることができました。

今回、公募により多数の応募者の中から選抜された区立小学校5年生の代表児童は、バンバリー市やウィーン市ドゥブリング区を訪れるにあたり、自分が興味を持った研究テーマを設定して事前・現地・事後の学習を通じて探究的な学びを体験することができました。今後、美しいインド洋に面した豊かな自然や世界に誇る芸術文化に触れ学んだ経験を一人でも多くの方に伝えることで更に高次の学びへと昇華させ、これからの人生を自分らしく豊かに生きる糧とすることを期待しています。

また、派遣先では、現地の方々から温かい歓迎を受け世田谷区代表の「親善大使」として姉妹都市交流再開の喜びを分かち合いました。この貴重な経験を活かし、これからの国際社会で国籍や文化、言語の違い等に関わらず多様性を認め合い誰もが平和的に暮らせる社会の構築のために活躍していくことを強く願っています。

結びに、この海外派遣に際し、多大なるご協力をいただきましたバンバリー市のミゲル市長、ウィーン市ドゥブリング区のレッシュ区長、日程等の調整にご協力をいただいた姉妹都市委員会や現地担当者の皆様、訪問を受け入れていただいた現地校の校長先生をはじめとする関係の皆様、心よりお礼申し上げます。また、代表児童の派遣にご理解、ご協力を賜りました保護者の皆様及び小学校校長会、各小学校の先生方、そして引率の先生方に深く感謝申し上げます、あいさついたします。



3 30 回目、そしてコロナ禍再開 1 年目にあたって

オーストラリア派遣団 団長 学校教育部副参事 井元 章二

バンバリー博物館では世田谷区とバンバリー市の姉妹都市に関する覚書が展示されていた。日付は 1992 年 11 月 10 日。小学生派遣は今年で記念すべき 30 回目を迎えた。バンバリー市のミゲル市長は自身が学生時代に派遣団の一員として本区を訪れたことを大変懐かしそうに語っておられた。また、市長表敬の際に姉妹都市委員の一人としてご同席されていた方はこれまで 3 人の市長を世田谷区にアテンドされた経験があり、その内の一人は学生時代のミゲル市長だったとのこと



アダムロード小学校の校長先生との記念撮影
(右が私です)

だ。こうした方々のお話を伺うにつれ両都市が築き上げてきた姉妹都市交流の重みを感じるとともに、コロナ禍で途切れた本事業を再開させ 30 回目を迎えることができたことの喜びを味わうことができた。

今回の我々の 9 日間の主な旅程は次のとおりだ。

11/2 羽田空港を出発、パース空港へ到着 11/3 コアラパーク、バンバリー市内消防署を見学、ホームステイ開始 11/4、5 終日ホームステイ 11/6 ドルフィンディスカバリーセンター、アダムロード小学校、ワルダンディ記念公園、ミゲル市長表敬訪問 11/7 ファーガソンバレー自然観察ツアー、ワイルドライフパーク動物園、ライフセービングクラブ訪問、姉妹都市委員会の方々との夕食会 11/8 キャリーパーク小学校、バンバリー博物館 11/9 モンガール湖、フリーマントル刑務所、AQAW 水族館、キングスパーク、パース空港へ到着 11/10 パース空港を出発、羽田空港に到着

この 9 日間で我々が特に得られた成果は 2 つある。

1、子どもたちの成長 派遣団は小学 5 年生。親離れするにはまだ早い年齢だ。出発当初は親元を離れた海外生活に不安な気持ちを抱えていたが、すぐに友だち同士で協力し合い自立した生活を送れるようになった。また、英語でのスピーチやソーラン節などは回を増すごとにどんどん上手になり海外の人の前でも立派にパフォーマンスを披露することができた。自信が増すに連れて日頃の英語でのコミュニケーションも積極的に取れるようになり、小学校訪問で授業に参加した際には、同年代の子どもたちと積極的に親交を深めることができた。

2、バンバリー市の方々との絆 我々はバンバリー滞在中、この街で出会う人々のおもてなしの心に触れる機会がとても多くあった。ミゲル市長をはじめ Qing さんなど市役所・消防署・ドルフィンディスカバリーセンター等の方々、ヴァルダさん、ズーさんをはじめとする姉妹都市委員会の方々、訪れた小学校の先生や子供たち、そして全てのホストファミリーの皆様。おかげさまで我々は素晴らしい体験をさせてもらえたが、我々も子どもたちの明るい笑顔や精一杯のパフォーマンス、手作りのメッセージカードなどでお世話になったことへの感謝の気持ちを伝え、大変喜んでいただくことができた。こうした心の結びつきを礎にして 31 回目の海外派遣事業の継続、発展に引き継いでいくことができると思う。

結びになるが、30 回目の節目、そしてコロナ禍からの再開 1 年目の記念すべき年に関わる機会をいただけたことに感謝をし、今後の本区とバンバリー市との交流の益々の発展に尽力する所存だ。

4 充実の海外派遣事業

オーストリア派遣団 団長 烏山小学校 校長 廣石 雄司

今回で 30 回目となるオーストリアへの海外派遣は、新型コロナウイルス感染症への対策から、4年ぶりの開催となった。しかし、今までの実践に基づいた派遣の内容は、実に充実していた。

子どもたちは、自分のテーマをもって臨むことにより、見学地では、意欲をもってメモを取ったり、写真に収めたりする姿が多くあった。特に区長表敬訪問の質問コーナーでは、自分のテーマに添ったSDGsが進んでいる理由についてや、住みよい街にするための工夫について、古い街並みを大切にしている取り組みについてなど、とてもいい質問が多く出された。それに対してドゥブリング区のダニエル区長は、一つ一つの質問に大変誠実に答えてくださり、区長表敬訪問が、姉妹都市の交流の懸け橋になったと同時に、子どもたちにとってもより意義深いものとなった。

また、学校訪問では、どちらの学校も温かく迎えてくださり、こちらの要望に応じてくださり、子どもたちは、地元の子どもたちとの交流を図ることができた。

音楽では、日本で練習していった「さくらさくら」ベートーヴェン作曲の「よろこびの歌」をドイツ語で披露し、現地の学校の子どもたちからは、たくさんの拍手をもらった。体育の授業では、中学校2年生にあたる14歳の子どもたちと一緒に、サッカーや器械体操、ゲームなどを行い、とても優しく接してくれた。どちらの学校でも図工の時間を設定してくださり、世田谷の子どもたちが折り紙を現地の子どもたちに教え、羽ばたく鳥やくす玉、風船などを子どもたちは、英語を一生懸命に話しながら一緒に作った。現地の子どもたちの公用語はドイツ語であるが、先生方も生徒・児童も英語でのコミュニケーションを図ってくれた。海外派遣の子どもたちは、1校目よりも2校目でより積極的にコミュニケーションを図ろうとできていた。

どちらの学校も私立の学校で、10歳から14、5歳までの受け入れで、音楽教育に特色があった。一校は、35の国、37の言語の子どもたちを受け入れ、宗教の違いがあったり、紛争国同士の子どもであったり、特別な支援が必要であったりする子どもたちも、共に学んでいたことが印象的であった。子どもたちも同様の説明を受け、実際の交流も通じて、多様性や国際人としての教養や見識を拡げることができた。

このオーストリアへの海外派遣は、子どもたちにとって、ザルツブルグやウィーンの歴史や伝統に触れ、国際的な視野を広げることができた。それに留まらず、区長表敬訪問や現地の子どもたちと直接触れ合いから、姉妹都市の交流の懸け橋となることができた。これらを通じて、国際人としての教養を拡げ、逆に日本のよさに気付くこともできる貴重な経験を積むことができた。

このような貴重な機会をいただいた世田谷区に感謝申し上げます。



ドゥブリング区長との記念撮影
(左が私です)

5 小学生海外派遣団員名簿

オーストラリア団 (バンバリー市)

団長

| 氏名 | 所属 |
|-------|-----------|
| 井元 章二 | 学校教育部 副参事 |

児童

| 氏名 | 所属 |
|---------|--------|
| 上杉 滯 | 喜多見小学校 |
| 大澤 杏 | 芦花小学校 |
| 大橋 喜一郎 | 東深沢小学校 |
| 加藤 二葉 | 砧小学校 |
| 川崎 航太郎 | 多聞小学校 |
| 後藤 清憲 | 上北沢小学校 |
| 杉田 みなみ | 尾山台小学校 |
| 鈴木 蓮央 | 玉堤小学校 |
| 田邊 双葉 | 池之上小学校 |
| 中山 鼎 | 山崎小学校 |
| 西野間 龍之介 | 太子堂小学校 |
| 春田 桃佳 | 塚戸小学校 |
| 増井 優翔 | 松沢小学校 |
| 松原 謙信 | 烏山小学校 |
| 横田 暁 | 千歳台小学校 |
| 葭谷 梨花 | 千歳台小学校 |

引率

| 氏名 | 所属 |
|-------|------------|
| 鈴木 裕介 | 用賀小学校 主幹教諭 |
| 越河 明子 | 船橋小学校 主任教諭 |

事務局

| 氏名 | 所属 |
|-------|-------------|
| 杉崎 朋美 | 教育指導課 指導管理係 |

オーストリア団 (ウィーン市ドゥプリング区)

団長

| 氏名 | 所属 |
|-------|----------|
| 廣石 雄司 | 烏山小学校 校長 |

児童

| 氏名 | 所属 |
|--------|--------|
| 石黒 義啓 | 船橋小学校 |
| 戎田 仁奈 | 松沢小学校 |
| 片柳 尚 | 明正小学校 |
| 小西 桃寧 | 経堂小学校 |
| 小平 笑美加 | 池之上小学校 |
| 坂本 菜央 | 九品仏小学校 |
| 佐々木 絢斗 | 砧南小学校 |
| 島川 航一 | 八幡山小学校 |
| 瀬戸口 楓果 | 尾山台小学校 |
| 仙水 悠貴 | 松丘小学校 |
| 檀 陽太 | 代田小学校 |
| 土屋 莉々衣 | 代沢小学校 |
| 福元 賀子 | 用賀小学校 |
| 細田 怜 | 笹原小学校 |
| 松永 桜 | 八幡小学校 |
| 山下 環 | 下北沢小学校 |

引率

| 氏名 | 所属 |
|--------|------------|
| 今野 仁英 | 砧小学校 主幹教諭 |
| 七尾 めぐみ | 桜丘小学校 主任教諭 |

事務局

| 氏名 | 所属 |
|-------|--------------|
| 野嶋 陽子 | 教育指導課 指導管理係長 |

Special Thanks

| 氏名 | 所属 |
|------|------------|
| 藤田 基 | 京西小学校 主幹教諭 |

6 学習会等日程表

| 回数 | 日 時 | 会 場 | 実施内容 |
|----|----------------------------------|-----------|--|
| 1 | 令和5年5月28日（日） 午前10時30分～午後0時30分 | 深沢区民センター | 派遣決定通知書 交付式 教育長あいさつ 第1回 学習会 （派遣団別オリエンテーション） 第1回 保護者説明会 |
| 2 | 7月2日（日） 午前9時30分～午後0時30分 | 宮坂区民センター | 第2回 学習会 国際理解のためのワークショップ 第2回 保護者説明会 |
| 3 | 8月20日（日） 午前9時30分～午後0時30分 | 区立若林小学校 | 第3回 学習会 挨拶 担当者確認 アトラクション練習 |
| 4 | 9月24日（日） 午前9時30分～午後0時30分 | 区立若林小学校 | 第4回学習会 挨拶 練習 アトラクション練習 第3回 保護者説明会 |
| 5 | 10月15日（日） 午前9時30分～午後0時30分 | 教育総合センター | 第5回学習会 挨拶 練習 アトラクション練習 第4回 保護者説明会 出発式 |
| 6 | 11月19日（日） 午前9時30分～午後0時30分 | 教育総合センター | 第1回 帰国後学習会 派遣振り返り 報告書、発表資料 確認 |
| 7 | 令和6年1月21日（日） 午前9時30分～午後0時30分 | 教育総合センター | 第2回 帰国後学習会 発表資料 確認 報告会 練習 |
| 8 | 3月10日（日） 午前10時～午後3時30分（予定） | 中町ふれあいホール | 報告会 |

7 オーストラリア団 派遣報告



(1) オーストラリア バンバリー市について

バンバリー市は、西オーストラリア州の州都であるパースから約180キロ南にある港町です。広大なインド洋に面し、19世紀後半のゴールドラッシュ時代の様子を今に伝える建物が残る、美しい街並みが続いています。町のすぐ近くに白い砂浜が広がり、クーンバナビーチでは、近辺までやってくる野生のイルカに出会うことができます。郊外へ行くと、ユーカリの森の中で、野生のカンガルーやユニークな形のワイルド・フラワーを見ることができます。



■バンバリー市の概要■

面積：約65 km²

人口：約3万2千人

東京からの所要時間：約13時間（シンガポール・パース経由）

東京との時差：-1時間

世田谷区の小学生がバンバリー市を訪問したことがきっかけで、1992年11月に両都市は姉妹都市の提携を行いました。それ以来、両都市における小学生派遣が毎年※行われています。そのほかにも、スポーツ分野や芸術分野における交流も行われています。

※…世田谷区からの派遣は令和2年～令和4年度、バンバリー市からの派遣は令和2～5年度は行っておりません。



(2) オーストラリア団 日程表

| | 月 日 (曜) | 発着地/滞在地 | 現地時間 | 交通機関 | 内 容 |
|---|---------------|--|---|--------------------------------|--|
| 1 | 11月2日 (木) | 区役所 発 羽田空港 発 シンガポール着 シンガポール発 パース着 | 04:45 05:15 08:50 15:25 18:40 23:55 | 専用バス 航空機 専用バス | 区役所集合 羽田空港へ シンガポールへ パースへ 到着後、専用バスにてホテルへ パース ホテル泊 |
| 2 | 11月3日 (金) | パース 発 バンバリー 着 | 08:30 09:00 11:00 13:00 14:30 | 専用バス | ホテル発 コフヌコアラパーク パース発 昼食(市内レストラン) 消防署訪問 ホームステイ家族との対面 ~ ホームステイ ~ |
| 3 | 11月4日 (土) | バンバリー滞在 | 終 日 | | ホストファミリーとの終日フリータイム ~ ホームステイ ~ |
| 4 | 11月5日 (日) | バンバリー滞在 | 終 日 | | ホストファミリーとの終日フリータイム ~ ホームステイ ~ |
| 5 | 11月6日 (月) | バンバリー滞在 | 08:00 08:45 09:00 11:00 12:30 14:00 16:00 17:30 | 専用バス 徒歩 | ホストファミリーとのお別れ 世田谷のミーティングタイム ドルフィンディスカバリーセンター バンバリー市図書館 学校訪問①(昼食) ワルダンディ記念公園(アボリジニ文化ワークショップ) 市長表敬 ホテルにチェックイン 夕食(ホテル) バンバリー ホテル泊 |
| 6 | 11月7日 (火) | バンバリー滞在 | 08:00 09:00 12:00 15:00 16:10 17:00 18:00 | 専用バス 徒歩 | ホテル発 ファーガソンバレー 昼食(市内レストラン) ワイルドライフパーク ホテル着(休憩) ライフセービングクラブ訪問 オージービーチゲーム オージーBBQ バンバリー ホテル泊 |
| 7 | 11月8日 (水) | バンバリー 発 パース 滞 在 | 08:30 10:00 13:30 15:00 17:00 18:00 | 専用バス 徒歩 | ホテル発 学校訪問②(昼食) バンバリー博物館、ウォンバットロッジ(お土産) バンバリー出発 ホテル着 夕食(市内レストラン) パース ホテル泊 |
| 8 | 11月9日 (木) | パース 滞 在 | 09:30 10:00 11:00 12:00 14:00 16:00 18:00 19:30 20:00 | 専用バス | ホテル発 モンガー湖散策(ブラックスワン) フリーマントル観光 昼食(市内レストラン) 水族館(AQWA) キングスパーク 夕食 お土産購入(パース市内) パース夜景見学後、空港へ |
| 9 | 11月10日 (金) | パース 発 シンガポール着 シンガポール発 羽田空港着 羽田空港発 区役所 着 | 01:10 06:20 08:05 15:35 17:30 18:30 | 航空機 専用バス | シンガポールへ 機中泊 羽田空港へ 到着、入国審査、通関手続 世田谷区役所へ 帰国式後、解散 |

(3) オーストラリア団 写真



11月2日 出発(羽田空港にて)



11月3日 コフヌコアパーク



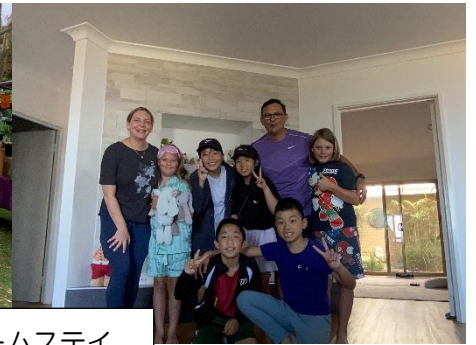
11月3日 市内ビーチ



11月3日 バンバリー消防署訪問



11月3～5日 ホストファミリー宅でのホームステイ



11月3～5日 ホストファミリー宅でのホームステイ



11月6日
ドルフィンディスカバリーセンター



11月6日 Adam Road Primary School 訪問



11月6日 アボリジニ文化体験



11月6日 バンバリー市 ミゲル市長 訪問



11月7日 ファーガソンバレーツアー



11月7日 ワイルドライフパーク



11月7日
バンバリーライフセービングクラブ



11月7日 姉妹都市委員会との夕食会



11月8日 Carey Park Primary School 訪問



11月8日 Qingさん、Zuさんとお別



11月9日 モンガー湖



11月9日 フリーマントル



11月9日 ヒラリスポートハーバ



11月9日 パース市内



11月10日 帰国式

(4) オーストラリア団 児童・引率報告書

○児童報告書（五十音順）

- ・喜多見小学校 上杉 漣 「私がオーストラリアに行って学んだ事」
- ・芦花小学校 大澤 杏 「オーストラリアの海外派遣で学んだこと」
- ・東深沢小学校 大橋 喜一郎 「最高のホームステイ」
- ・砧小学校 加藤 二葉 「オーストラリア海外派遣で学んだこと」
- ・多聞小学校 川崎 航太郎 「オーストラリアの人の『優しさ』」
- ・上北沢小学校 後藤 清憲 「オーストラリアで過ごした 9 日間」
- ・尾山台小学校 杉田 みなみ 「オーストラリアと日本の違い」
- ・玉堤小学校 鈴木 蓮央 「『絆』を深めた 9 日間」
- ・池之上小学校 田邊 双葉 「現地に行って学んできたこと、感じてきたこと」
- ・山崎小学校 中山 鼎 「I love my friends♡」
- ・太子堂小学校 西野間 龍之介 「最高の思い出」
- ・塚戸小学校 春田 桃佳 「オーストラリアバンバリー市に行って気付いたこと、学んだこと」

- 松沢小学校 増井 優翔 「オーストラリアで学んだこと」
- 烏山小学校 松原 謙信 「僕のオーストラリアでの体験」
- 千歳台小学校 横田 暁 「コミュニケーションの重要性」
- 千歳台小学校 葭谷 梨花 「オーストラリア海外派遣で学んだこと」

○引率報告書

- 引率 用賀小学校主幹教諭 鈴木 裕介 「世田谷・バンバリ」
- 引率 船橋小学校主任教諭 越河 明子 「姉妹都市『バンバリー市』との交流を通して」
- 引率 教育指導課指導管理係 杉崎 朋美 「オーストラリア、子どもたちとの最高の冒険」

私がオーストラリアに行って学んだ事

喜多見小学校 上杉 滯

私は世田谷区の海外派遣でオーストラリアのバンバリーに行きました。最初は楽しい気持ちの反面、両親と1週間離れ、しかも初めての海外だったので、少し不安な気持ちでもありました。

人生初のホームステイでは、まずホストファミリーのジェーンに「どこに行きたいですか?」と聞かれたので、「プールに行きたいです」と答えました。屋内プールに行くのかなと思っていたらホストファミリーの友達の家プールに行っただので、水泳が身近だと感じ、「オーストラ



左が私です

リアは水泳が身近ですか?」という質問をしました。すると「オーストラリアの海はとても危険で、泳ぎを知っていることが非常に大切になるため、水泳は身近だと思います」と教えてくれました。オーストラリアは泳ぎを知っている人が多く、水泳が身近だから水泳が強いのだと考えました。次に、ホストファミリーに連れて行ってもらった市場で偶然日本の文化を紹介していた引率の先生たちに会い、習字を披露できたことが思い出に残っています。私は習字を習っていて、その成果を発揮して日本の文化を知ってもらうことができました。ホストファミリーのソフィも自分の名前を書いてくれてとても嬉しく思いました。

私は英語が話せないけど、勇気を出して恥ずかしがらず、ホストファミリーにたくさん話しかけてみました。最初は不安な気持ちになるけど、違う言語でも伝えたい気持ちがあれば通じ合えるという事が分かりました。たった3日のホームステイだったけど、本当の家族のようで、お別れの時はとても寂しい気持ちになりました。学校訪問でも積極的に話しかけ、仲を深める事が出来ました。

ライフセービングクラブ訪問では、英語を頑張って覚え、私たち絆組について伝えました。そしてビーチで遊んだり、夜はバーベキューをしたりとても楽しい時間が過ごせました。

バンバリー消防署訪問では、山火事が発生する原因や、その影響を受けているコアラのことなど様々な事を教えてもらいました。私は九歳から少年消防団に所属していますが、オーストラリアは早くて十六歳からと言っていてその違いに驚きました。

このような素晴らしい経験をできたのも支え合い、励まし合える心強い仲間がいたからだと思います。そして、この16人の仲間やオーストラリアの人たちと絆を結べたことをとても嬉しく思います。最初の不安な気持ちはなくなり、最後はまだオーストラリアにいたいと思い、離れるのが寂しかったです。

この海外派遣で学んだ事、感じた事などをこれからの人生に活かしていきたいです。

最後に、今回の派遣に協力して下さった世田谷区とオーストラリア、引率の先生方、応援してくれた友達、担任の先生、校長先生に感謝の気持ちで一杯です。本当にありがとうございました。

オーストラリアの海外派遣で学んだこと

芦花小学校 大澤 杏

私は海外派遣で姉妹都市のオーストラリアバンバリー市に行ってきました。チーム名は「絆組」です。これは、人と人の結びつきを大切にこれからもこの関係を続けようという意味がこめられています。そして、私の海外派遣の課題は、「環境保護と自然」でした。

「絆」を一番体験できたのはホームステイです。私は牧場をやっているホストファミリーの家にお世話になりました。英語が話せなくても身振り手振りなどでお互い分かり合うことができ、翻訳機能を使ったり、相手の言語を少しずつ話してみたりして、楽しく会話ができました。



とても優しい家族だったのでお別れの時は寂しく、再会できた時は嬉しかったです。小学校を訪問したときは、現地の6年生が温かく迎えてくれました。一緒に折り紙や福笑いをしたり、お昼ご飯を食べたりしました。英語で会話し、友達を作れたので嬉しかったです。また、現地の小学校は中庭があり、自然が多くて気持ちよかったです。

環境保護と自然についてもたくさん学ぶことができました。オーストラリアは環境保護に真剣に取り組んでいました。市長さんからは、市内の環境を守るための取り組みを聞き、ビーチの砂の下にビニールシートを入れゴミを回収しやすくしたり、プラスチックの輸入をなくしたりしているそうです。日本ではたくさんプラスチックをみるので驚きました。帰国後、日本はプラスチック消費量2位と知ったので、今後プラスチックを使わないで済む方法について家族や友達と考えたいと思います。

市役所の人からはオーストラリアは山火事が多く、山火事が環境破壊につながることを教わりました。そのため、「レンジャー」と呼ばれる人が山火事対策をしており、消防団が活躍している、と聞きました。

また、オーストラリアでは自然がとても身近で、日本では珍しい動物と触れ合うことができました。私はカンガルーと触れたり、コアラを抱っこしたり、イルカを浅瀬で見たりしました。日本の固有種が48種なのに比べてオーストラリアは約100万種と聞いて驚きました。

また、ホームステイ先は牧場だったので、鶏や牛、エミューやひよこ等の鳥がたくさんいました。家のリビングに鳥が来て、お母さんが餌をあげていました。

私がオーストラリアで1番心に残っているのはホームステイです。初めて会った時は迷惑をかけてしまわないかや言葉が通じるかなど不安が多かったけれど、「困ったことがあったらなんでも言って」と言ってもらえてとても安心しました。限られた日本語と英語でもとても楽しく会話できました。また、市長表敬の時に英語スピーチをうまくできて、うれしかったです。

そしてチーム名の通りに、たくさんの海外の人と絆を結べて良かったです。これからも派遣団の友達や、現地で仲良くなった人とも絆を結んでいきたいです。

最高のホームステイ

東深沢小学校 大橋 喜一郎

僕は、バンバリー派遣で動物園や現地の小学校など色々なところに行きました。その中でも一番印象に残ったのは、ホームステイです。その理由は2つあります。

1つ目の理由は、家族とたくさん英語を話せたからです。最初は緊張したし、英語がなかなか出てきませんでした。しかし、1日一緒に過ごすと、どんどん英語が頭に入ってくるようになりました。自分が話す時、わからない英語があった時はジェスチャーで表しました。例えば、みんなで日本のお菓子キットを作った時に、「混ぜる・水を入れる」をジェスチャーで表現しました。そうしたら意味が伝わり、とても嬉しくて自信にもなりました。



2つ目は、家族と一緒に遊んだり交流したことです。家にプールや卓球台があり、お兄ちゃんや妹さんと遊びました。僕が好きなサッカーゲームも一緒にしました。また、家から少し離れたところにあるビーチに行き、生きている貝を見つけたり、お兄ちゃんがやっているクリケットの練習を見に行きました。オーストラリアにちなんだところに連れて行ってもらったので、とてもよい経験になりました。

家ではお父さんが得意な料理をふるまってくれました。お父さんは昔イタリア料理のシェフだったので料理がとても上手でした。僕たちの目の前で生地からピザやパスタを作ってくれて、見ているだけでも楽しかったです。料理を作りながら、お母さんが作り方を説明してくれたのでそれを聞いたり、食事する時は家族のことを聞いたり、自分のことを話しました。初めてのホームステイで、英語やジェスチャーを使ってホストファミリーとたくさん交流できたことが、本当に楽しかったです。

そして、バンバリーで人と交流しながら一番感じたことは、日本人も外国人も国は違うけど、同じ人間であり、人と人との付き合い、つながりであるということです。例え言葉がわからなかったとしても、お互いが相手の文化や言葉を理解しようとする気持ち、態度がとても大切だと思いました。交流しながら、自分のことや日本のことを知ってもらうには、黙っていても伝わらないので、どんどん自分から積極的に話さないといけないことも強く感じました。間違えてもよいので、どんどんチャレンジしていくことも必要だと思いました。

バンバリーに行くまで、英語の勉強は何となくやっていました。ニュースで流れる世界のことも何となく聞いていました。しかし、今は世界の人と話したり、世界の人のことを知るために英語を勉強しようという気持ちが変わりました。また、世界の文化や考え方をもっと学びたいと思うようになりました。バンバリー派遣で見たこと感じたことを、大人になっても忘れないようにしたいです。そしていつか、成長した自分をホストファミリーにみせるために、バンバリーをもう一度訪れたいです。

オーストラリア海外派遣で学んだこと

砧小学校 加藤 二葉

私はこの海外派遣で一番楽しみにしていたことはホームステイでした。最初は英語も話せずとても緊張しましたが、たくさん話しかけてくれて、楽しめることをたくさん考えてくださり、少しずつ理解できるようになりました。私は、たとえ言葉が通じなくても、仲良くなりたいという気持ちが一番大切なのだ、ということ学びました。



私が今回調べてみたかったテーマは、自然と融合したバンバリーの建物や町並みについてです。実際に見てとても心に残ったことがたくさんありました。

まず道路はきれいに街路樹が植えられていて、歩道にはたくさんの場所に芝生やレンガが敷いてあり、道を歩いているのにまるで公園を歩いているようでした。日本のように全部アスファルトで固められているのではなく、道路も温かい雰囲気を感じられました。

住宅地は広い敷地がきれいに区画されていて、日本では例え広い土地があってもこんなに整った町並みはあまりないように思い、まるで映画のセットのようでした。また住宅はほとんどが平屋で、訪問した小学校も2階までしかなく、高い建物がほとんどないので空が高く、少し高台に行くところからでも海が見渡せて、それも自然をすぐ感じられる理由の一つかもしれません。

ホームステイでは自然を感じながら生活する個人の住宅がよく見ることができました。私のホストファミリーの自宅には大きなテラスがあり、そこにはBBQコンロや大きなソファ、ジャグジー、巨大テレビなどが置いてあって、いつでも外の空気を感じながらくつろぐことができ、日常的に自然を楽しむ様子がよくわかりました。

こんなに自宅が整っているのに、パースの海近くに別荘があり、週末は一泊でビーチへ連れて行ってくれて、いつも自然が近い生活にとっても驚きました。

建物の中で特に印象に残っているのは、フリーマントル刑務所です。日本の刑務所は高い灰色の塀があって近寄り難いイメージですが、ここは坂道を登った高台にあり、石造りで、高い塀もなく、まるでお城のように見えました。刑務所の建物でさえ町の中に溶け込んでいたことがとても印象的でした。

建物全てが自然と融合しているこのバンバリーの素晴らしい景色を、私は一生忘れることはないと思います。

最後に、私は海外派遣出発直前に腕を骨折してしまい、不自由があったたくさんご迷惑をおかけしましたが、仲間や先生方、ホストファミリーの優しさや絆を心から感じる事が出来る旅となりました。骨折した腕に防水カバーをつけての海水浴など、全部チャレンジさせてくれた事に本当に感謝しています。そしてハンディキャップがある人の大変さがとても実感できたので、全ての人たちが生活しやすい町づくりの大切さも知る事が出来ました。ここに書ききれない程の一生の思い出がたくさんです。この海外派遣に関わってくださった全ての方と仲間たちに心から感謝したいです。

オーストラリアの人の「優しさ」

多聞小学校 川崎 航太郎

僕は、11月2日から9日間世田谷区のオーストラリア派遣団員としてオーストラリアに行きました。

僕がオーストラリア派遣を通じて強く感じたことは、オーストラリアの人達が優しく対応してくれることです。

主にそのように感じたの4つの場面でありました。

1つ目は、ホストファミリーの方々が優しく対応してくれたことです。

なぜなら、僕はホストファミリーと初めて会ったときにとても緊張していたのですが、ホストファミリーの方々が積極的に日本語を使ってくれたり、コミュニケーションをとってくれたりしてくれて緊張がほぐれました。

さらに好きなものを聞いてくれて、その好きなものを実際にご飯の時に出してくれたり、他にも夜にピクニックに連れて行ってくれたりするなど、僕たちを喜ばせるためにいろいろなことをしてくれたからです。

2つ目は、学校訪問のときにお互いに言葉があまり通じなかったけれど、積極的に声をかけてくれたことです。

なぜなら、学校で、僕は英語がほとんどわからなかったのですが、オーストラリアの学校の先生や生徒たちが積極的に声をかけてくれ、またいろいろな動作で一生懸命伝えようとしてくれて、最終的には伝えたいことがわかったので、そういうことを熱心にしてくれるのはとても優しいなと思ったからです。

3つ目は、オーストラリアでいろいろなお手伝いをしてくれた人のことです。

その方たちは市長表敬訪問の時に、オーストラリアの方々はみんな英語でスピーチをしていて、その英語を日本語にわかりやすくコミュニケーションを取れるように通訳してくれたり、バスの手配などをしてくれました。またオーストラリアで手伝ってくれた方たちはみんな忙しいのに、僕たちを楽しませるためにいろいろな面白いことを話してくれたり、僕たちの活動をサポートしてくれたおかげで充実した9日間になりました。

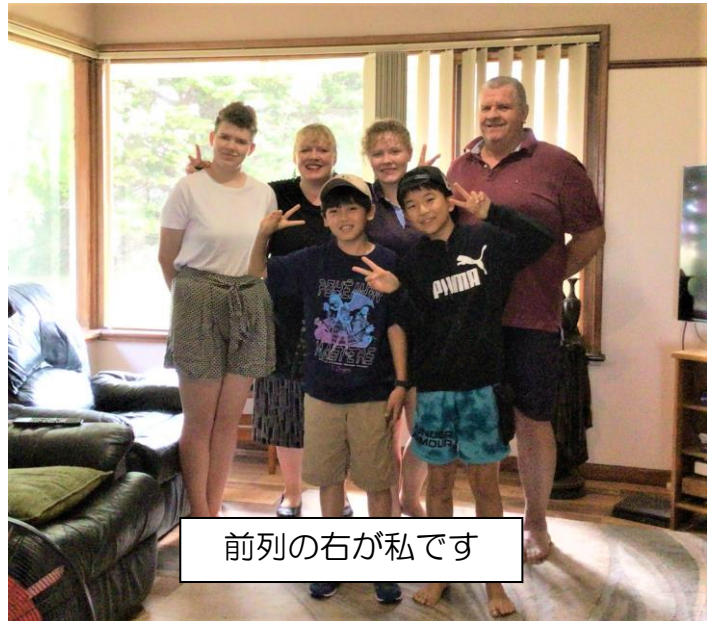
4つ目は、どんなときも、『Hello』などと挨拶をしたときに誰でも『Hello』と返してくれることです。

なぜなら、日本では『こんにちは』といっても、会釈でしか返してくれない人もいるのに、オーストラリアに行くときみんなしっかりと挨拶を返してくれるからです。

〈まとめ〉

親が以前中学、高校とオーストラリアに住んでいて、一度行って見たかったので今回行けたことに感謝しており、また、『絆』をいろんな人と結べたことを嬉しく思います。

そして、オーストラリアの人達にとっても優しくしてもらい、最高のおもてなしをしてもらったので、今度、オーストラリアと何か関わることがあったら、同じように、優しく対応をして、最高のおもてなしをしようと思います。



前列の右が私です

オーストラリアで過ごした9日間

上北沢小学校 後藤 清憲

「こんな広いところなの！」見渡す限りどこまでも広がるファームにホストファミリーは住んでいました。どこまでが家の敷地か分からないくらい広い場所でした。

今回の海外派遣で一番印象に残ったのはホストファミリーと過ごした日々でした。日本ではなかなか体験できないとても広いファームや自然を生かした街並み、ソウルフード、生活を知ることができました。

最初は、ホストファミリーと仲良くなれるか不安でしたが、マーstonさん一家は英語でゆっくりと「よろしくね」「聞きたいことがあったらなんでも聞いてね」など優しい言葉をたくさんかけてくれたのでほっとしました。ホームステイ初めての夜は、自己紹介したり、日本の小学校のことなど伝えたりして少しずつ仲良くなりました。みんなでカードゲームもして、英語があまり通じなくても身振り手振りでコミュニケーションを取り楽しく過ごすことができました。



また、ニワトリや牛、馬などにエサをあたえたりお世話をさせてくれたりしました。ヒヨコを近くで見たくてヒヨコを手を取ったら、親のニワトリがあわてて寄ってきて僕の手を噛んできました。この時、ニワトリも子供を取られたら取り返そうとする気持ちがあると感じました。

他にも、「ラミントン」というオーストラリアの伝統的なお菓子を食べました。スポンジケーキにチョコレートソースをつけてココナッツをまぶしてあり、甘くてとても美味しかったです。

また、夜になって木を見上げるとフクロウがいました。意外と目が大きくてかわいかったです。

市長表敬訪問でソーラン節を披露した時、来てくれたホストファミリーのお父さんが「どっこいしょ」のポーズをまねて、「かっこよかったよ」と言ってくれました。全力で踊ったかいがあり、日本の代表的な踊りを知ってもらえて嬉しかったです。

帰国の翌日、ホストファミリーから「赤ちゃんのフクロウが巣から出て来たよ」という連絡をもらって、数日前のことが懐かしく、またマーston家族に会いたいなという気持ちが込み上げてきました。

2つ目に印象に残ったことは学校訪問です。小学校のみんなが出迎えてくれて、一緒に折り紙を折ったり福笑いをしたりして「絆」を深めることができました。また、今回訪問した小学校や他の学校でも日本について学んでいると聞いておどろき、お互いの言葉や文化を知ろうとする大切さを感じました。先住民のアボリジニの子どもが在籍していることもあり、アボリジニの伝統や文化も学んでいると聞きました。

また、ワルダンディ記念公園では、アボリジニの方から歴史や文化について教えていただきました。世界の色々な文化を尊重し、理解した上で自分たちの文化の素晴らしさをいろんな人に伝えていきたいです。

僕は第30回小学校海外派遣として過ごした9日間で、ホストファミリーや周りの人に親切にしてもらってバンバリーと世田谷区をつながりや、大切な自然を守って残していく取り組みなどを学んできました。

最後に派遣で関わってくださった方々、「絆」チームに出会えたことや貴重な体験ができたことに感謝の気持ちでいっぱいです。

オーストラリアと日本の違い

尾山台小学校 杉田 みなみ

私は11月2日から11月10日までオーストラリアのバンバリー、パースに行ってきました。出発まではあまり不安はありませんでしたが、いざ出発となると今から8日間家族と離れるとなると悲しかったしホームステイの人たちがどんな人なのかなど色々心配しました。

私のホストファミリーは、お母さんとお父さん、そして女の子がいる3人家族で初めに会った時にプレゼントをくれてとても優しくしてくれました。ホームステイをして2日目に市場に連れて行ってもらい、ドーナツとりんごジュースを買っ



てもらいました。そして市場でボランティアをしていた引率団と偶然会いホストファミリーの子供に習字でカタカナを教えてあげました。家に帰ってトランポリンをして遊んでいると仕事からお父さんが帰ってきてその日の夜はBBQをしました。3日目は家でプールを組み立ててもらって遊びましたが寒くなって来たので、家の中に入って温まりながら猫を飼っていたのでなでたりして癒されながら過ごしました。ホームステイ先のお母さんがアーティストだったのでその絵が飾ってある展覧会に連れて行ってもらったりしたので別れるのが寂しかったです。

楽しかったことは2回目の学校訪問で日本語の授業を受けた時、体を動かすゲームをしたこと、カンガルーに餌をあげている時に手を掴まれてびっくりしたけど怪我はしなかったし、可愛かったので良かったです。

6日目は姉妹都市委員会の人達とオージーBBQをした時にスピーチをして、最初は英語で話すので成功するか心配したけど戸惑わずに堂々と、ハキハキと言って一緒にスピーチをした子ども成功しました。その後も姉妹都市委員会の方が飼っている犬と遊んだり、綺麗な夕焼けを見れたりしたので一生忘れない最高の思い出になりました。

8日目にモンガー湖に行ってブラックスワンを2羽見つけました。その後芝生の上で班対抗リレーをして何回も最下位になってしまいましたが、涼しくて気持ち良かったし盛り上がって楽しかったです。

オーストラリアと日本の違いを1番感じたのは道を歩いているときに通行人に手を振るとオーストラリアではふりかえしてくれる人がほとんどなのでそこが日本との違いだと思いました。また、日本では目的地に行くときに歩いたりしますがオーストラリアでは大体いつも車で移動することが多いことが分かりました。

最後に私たちが出発するまで全力でサポートしてくれた皆さん、そしてオーストラリアでの生活を安全安心に過ごせるように前々から準備してくれていた皆さん、そして日本で無事に帰ってくることを待っていた家族のみんな、海外派遣でオーストラリアに行くことを応援してくれていた学校の先生方ありがとうございます。

オーストラリアで学んだことを今後の色々なことに活かしていきたいです。

「絆」を深めた9日間

玉堤小学校 鈴木 蓮央

ぼくはこのオーストラリアに行って、色々な事ができました。

まず一つ目は、オーストラリアの人と、団員のみんなと、絆を深めるということ、また、オーストラリアの人と、お互いの文化について交流することです。ぼくは、ホームステイの時、上手な英語を話すことができず、ホストファミリーの人に少し翻訳機能をつかってもらったりと、助けてもらってばかりでした。それでも積極的に英語を使いたいという思いは通じていたようで、ホストファミリーも積極的にコミュニケーションを取ってくれました。また、ぼくはオーストラリアの文化に興味があって、ホストファミリーのみなさんは日本の文化に興味があ



ったので、お互いの文化について話していくうちに、どんどんお互いの国のことが好きになっていき、とても仲良くなることができました。この時に、お互い文化が違って面白い、みんな違うけれどみんないいというように考えられるようになりました。この時にはもう、絆ができていたと思います。ちなみに、ぼくはホストファミリーと別れる時に大泣きしてしまいました。それは絆を深めることができ、寂しいという気持ちが大きくなってしまったからだと思います。絆一つでここまでの気持ちを持てることは、すごいことなんだと思いました。この体験のおかげで、絆を深めることは、お金にも代えられない、本当に大切なことなんだなと感じました。

二つ目は、自分のことを自分でするという責任を身につけることができたことです。もう僕たちは小学5年生。自分のことは親などではなく、自分でやろうというようになってくる時期です。でも、今回のオーストラリア派遣のように、長期間親元を離れるという経験はなかったので、どこかまだ親に頼る気持ちが、甘さが残っていたのかもしれない。でも、今回のオーストラリア派遣では、先生がサポートするのはあくまでみんなの、全体のこと。個人個人のことは、本人がやっていかなければ遅れてしまうという状況でした。この状況があってこそ、派遣団の全員、自分のことは自分でやるという責任感が身についたのではないかと感じます。

三つ目は、自分だけの勉強をすることができたということです。学校の授業は、先生が教えてくれることで、個人個人の学習をする機会はありません。そのため自分の課題について調べるといった気持ちが、自分にもあまりなかったのだと感じます。このオーストラリア派遣によって、自分の知りたいことを追求する楽しさ、自分だけの、自分で考える課題に向かう難しさなどの、学習の方法も考えることができたのだと思います。

このように、オーストラリアに行ったからこそ学ぶことができたことがたくさんあります。こんなに貴重で素晴らしい体験をさせてもらったからこそ、オーストラリアで学んだことを広めたり、行動として起こしたり、これからの生活にたくさん活かしていきたいと思っています。

現地に行って学んできたこと、感じてきたこと

池之上小学校 田邊 双葉

私は、現地に行って学んで来たことや感じてきたことが4つあります。

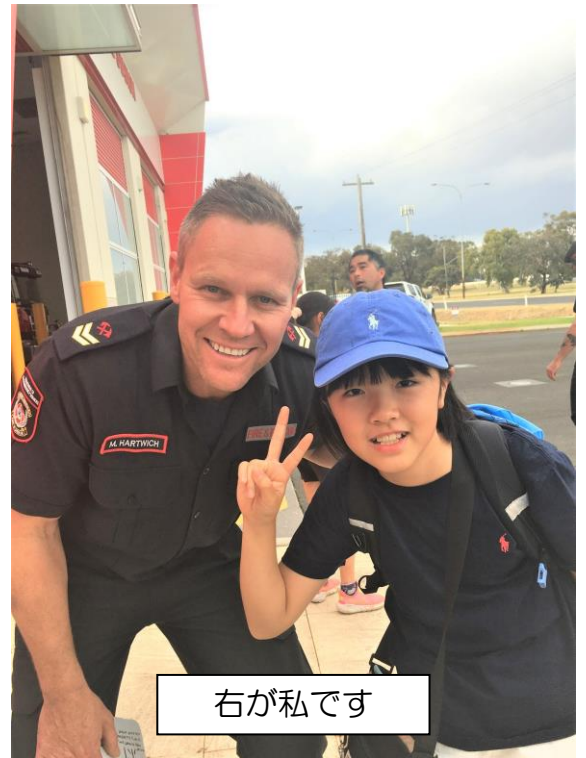
1つ目は、オーストラリアの方がとてもフレンドリーだったことです。お土産屋さんに行った時、袋の値段を割り引いてくれたり、学校訪問に行った時、初めて会ったのにも関わらず、日本語で「こんにちは」と話しかけてくれました。とても短い時間一緒に遊んだだけで、とても仲良くなれました。他にも、ホストファミリーの方も、家族のように接してくれました。日本では、知らない人には、あまり気楽に挨拶をしないので、びっくりしました。でも、挨拶をすると、お互い気持ち良くなるので、挨拶を心がけたいです。

二つ目は、オーストラリアは、SDGsの取り組みをたくさんしていることです。私は、オーストラリアのゴミ箱を見てびっくりしました。リサイクルできるものと、その他で分けられていました。オーストラリアは、日本よりもゴミのリサイクルに対する意識が高いと思いました。他にも、ペットボトルが100%、50%リサイクルだったり、マクドナルドなどの飲み物の入れ物のストローや、ふたが全て紙で作られているものが多かったです。

三つ目は、野生動物との距離がとても近いことです。海に、野生のイルカが浅瀬に来たり、カンガルーに餌をあげてなでたり、コアラを抱っこしたりしました。SDGsの取り組みをたくさんしているからこそ、自然や動物を守れているんだなと思いました。動物も、安心して、人間の前に現れているんだなと思いました。

四つ目は、野生動物を守る取り組みです。オーストラリアは、とても乾燥している国で、山火事が起こりやすい地域がたくさんあります。そのため、山火事が起きて、野生動物のたくさんの命が奪われていってしまいます。だから、なるべく山火事を起こさないように工夫をして、万が一、山火事が起きても、すぐ対処できる用にしているそうです。そして、山に住んでいた野生動物を保護し、なるべくたくさんの命を落とさないように努力しているそうです。他にも、プラスチックのゴミを減らすために、色々なもの、例えば古紙や紙パックなどをリサイクルして再利用しています。そういう取り組みも、野生動物を守る取り組みにつながるのではないかと考えました。日本でも、自然や動物を守るために、ゴミを減らす取り組みをしたいです。例えば、牛乳パックやヨーグルトのカップなど、図工の作品などに使えるものは、捨てないで、再利用するようにしたいです。

最後に、私たちにオーストラリアへ行く機会を与えてくださった先生方や、私たちを受け入れてくれたホストファミリーの皆さんに感謝したいです。現地に行ったからこそ、オーストラリアの文化や、特色をクラスのみんなや、家族に伝えます。そして、オーストラリアのバンバリー市の方々と絆を深められたのでよかったです。オーストラリアで過ごした日々は、最高に楽しかったです。現地に行って、学んできたことを、日本の生活にも活かしたいです。またいつかバンバリーに行きたいです。



右が私です

I love my friends♡

山崎小学校 中山 県

「世界が平和になる」これが私の夢です。今、戦争のニュースがたくさんあります。いつも知るたびにとても心が痛くなります。私は、世界の人々が笑顔になれば、世界は必ず平和になると思っています。

今回、オーストラリアに派遣される事に決まり、「世界の人々の喜びを知るチャンスだ」と思いました。ホームステイでも、いろいろなことを体験しました。ビーチで出来たてのフィッシュ&チップスを食べたり、みんなで公園で遊んだり、お祭りで溶けそうになっているソフトクリームをあわてて食べたり、鳥にパンの端っこをあげたりして、とても楽しくて



本当の家族のような気がしてしまいました。みんなとてもフレンドリーで、すぐ打ち解けられるように話しかけてくれて、すごく心があたたかくなりました。

優しくしてくれた人は、ホストファミリーだけではなく、団員の仲間も、私が物を無くした時に一緒に探してくれたり、公園で遊んで困った時も助けてくれたり、そして笑いあっているうちに、お互いにとても仲が深まりました。

私は、なんだか「ありがとう」の気持ちでいっぱいになりました。この、言葉にできない気持ちを、これからどんな風に世の中に活かせばいいか考えました。私が体験したように、誰かを笑顔にしてあげられたら、その1つ1つは小さくても世界平和に繋がる一歩になると思います。

そして、たくさんの動物たちとふれあう事もできました。コアラを抱っこさせてもらえた時、とても可愛らしくて、まるで人間の赤ちゃんを見ているような優しい気持ちになりました。派遣前にオーストラリアの環境について調べ、コアラの山火事の事を知り、「何とか助けたい」という気持ちが、もっと強くなりました。

ドルフィンディスカバリーセンターでは、海に捨てられたプラスチックによって、背びれが傷ついたイルカの事を知りました。すぐ近くにイルカが来たときは、とても嬉しかったです。このイルカたちが私たちの捨てたゴミによって傷つく、という事にとっても心が痛み、何かできる事がしたいと思いました。

さらに、私のホームステイ先はとても広い農場だったので、動物たちがいつも生活の中に一緒にいました。動物の言葉はわからないはずなのに、気持ちが通じていて、とても感動しました。

人も、動物も、同じだと思いました。動物も、いろいろな動物がいて、人間も、いろいろな人間がいます。国や文化、肌の色、性格も違っていたりします。でも、みんながいるからできることがたくさんあり、笑顔になれます。

日本とオーストラリア、世田谷とバンバリー、私にとって大切な人たちがたくさんいます。帰国した今、団長、団員、先生、友達、家族、バンバリーの小学校のみんな、市長さん、お会いしたみなさん、みんなが笑顔になるように、学んだことを活かして「ありがとう」を伝え、お互いの良いところを見つけて、世界平和に繋がりたいです。この海外派遣で出会えた人たちと強い「絆」で結ばれますように。I ♡ Australia !!

最高の思い出

太子堂小学校 西野間 龍之介

僕はオーストラリアに9日間滞在し、様々なことを学んできました。例えば日本とは違う文化や日本とは違う行動をしている人がたくさんいたことに気づき、とても楽しかったです。その中でも心に残ったことは大きく分けて3つあります。

1つ目は、僕の学習の課題である動物や植物にとっても気を遣っていたところです。どのような部分からそう思ったかという、乾いた土地を潤すため、植物に水をあげる機械があると知ったことなどです。動物に関しては、山火事を予測して被害を最小限に抑える活動をしている



レンジャーと会いました。山火事が起きた時、動物を4匹も助けた聞きました。オーストラリアの人は動物に優しいんだと実感しました。レンジャーは、犬の保護などもしているなど、様々な仕事をしていると知りました。また一番驚いたことは、水族館に行った際、食べ物と間違えてゴミを食べてしまったイルカを助けたことです。ここでもオーストラリアの人の動物への愛情は、とても強いのだと感じました。他にもカメを救出したと話を聞きました。水族館では、魚を育てることだけでなく、救出などもしていると分かりました。

2つ目は、アボリジニのことをさらに詳しく知ることができました。その中でも、ブーメランについて、様々なことが分かりました。動物を狩るときにブーメランを使っているという事は知っていましたが、木を切る時や人と戦うときなどにも使われていると知りました。ブーメランには絵が描いてあって、その形も用途によって工夫されていると分かり凄いなと思いました。またアボリジニは人口の現在約3%だけです。なぜ最初にオーストラリアにいたアボリジニが人口が3%しかいないような状況になってしまったか気になって調べてみました。そうしたら、アボリジニはイギリス人がオーストラリアに来た時に伝染病を持ち込んでしまい、その伝染病に、アボリジニの人たちが感染してしまったのが理由の1つでした。もう一つは、イギリス人を中心としたヨーロッパ人の虐殺で死んでしまった人もいると知りました。僕はこのようなことを知り、悲しい歴史があることを知りました。

3つ目はオーストラリアの学校の事についてです。オーストラリアの学校は日本と違うところがたくさんありました。その中でもびっくりした事がたくさんあります。オーストラリアの学校で日本語の勉強をしていたことです。日本では世界共通語の英語を勉強しますが、オーストラリアでは日本語を勉強していました。その日本語を使って、簡単な挨拶などで関わりを深めることができましたが、その中で僕が一番驚いたのは、校庭にバスケットコートがたくさんあった事です。だからオーストラリアは、みんながいつもバスケットボールができ楽しめ、バスケットが強いのだと思いました。もう一つ、最後に、僕が思った事はみんなとても元気だったことです。ご飯を食べ終わった後の休み時間に、すぐバスケットコートに行き、バスケットをして、みんな仲良くとても楽しそうに遊んでいたのも、オーストラリアの人も日本と変わらず、とても元気なんだと改めて思いました。

僕は、このようなオーストラリアでの思い出やオーストラリアと日本は何が違うかなどを、クラスだけでなく、学校中に伝えていきたいです。

オーストラリアバンバリー市に行って気付いたこと、学んだこと

塚戸小学校 春田 桃佳

私はオーストラリアに行って沢山のことを学び、体験しました。

最初は会話が通じるか不安でしたが、ジェスチャーや単語を並べるなどをしてだんだん会話ができるようになっていきました。オーストラリアの人たちはとてもフレンドリーで初めて会った時から積極的に話しかけてくれたりしました。見知らぬ人でも手を振ってくれたり、話しかけてくれたりしました。

オーストラリアは動物との距離が近く、カンガルーの餌やりやコアラの抱っこ、イルカが海の浅いところまで来るなど、日本ではなかなか体験できないことが体験できて、いい思い出になりました。



この海外派遣ではホームステイもしました。

ホームステイをして1番最初に気がついたことは、家の広さと敷地の広さです。家に入ったとたん、日本の家ではあまりないくらいの広さでした。そのため、国土面積の違いというものを実感しました。バンバリーの家はレンガ作りで、ほとんどが平屋でした。なので、色々な自然が家に邪魔されることなく見れました。しかも、家が低いため、風通しが良かったです。家があるところと自然があるところに分かれているので統一感がありました。

次に感じたことは生活様式の違いです。

ホームステイ先の家族と色々なところに行きました。日差しが強く皮膚がんになる可能性もあるため、公園の上にタープが張ってありました。オーストラリアでは色々なところに行きました。公園や地元のホームセンター、そして海に沈むサンセットなどもみました。ホストファミリーのお父さんが昔イタリアンシェフで沢山のイタリアン料理を作ってくれました。特に美味しかったのはピザで、そのピザをよそっていた紙皿をピザがまに投げ入れてできるだけエコに火を保たせていました。

オーストラリアの食事は揚げ物やフルーツがほとんどでした。揚げ物はフィッシュアンドチップスが多かったです。フィッシュアンドチップスは白身魚の揚げ物と、ポテトがついてきた料理でした。

やはりオーストラリアは日本よりも自然が多く、野生のカンガルーや、その子供を見ることができました。自然が多いので、オーストラリアに上陸した時も植物の匂いがたくさんしてオーストラリアの植物の多さも実感しました。

日本とは違う文化や社会、そして自然を実感することができました。一期一会という四字熟語があるように、人生は人との出会いで構成されているということを実感しました。そしてみんな違うそれぞれの価値観があることを学び、海を超えたところの友達と出会うことができ、とても視野が広がる貴重な体験でした。

オーストラリアで学んだこと

松沢小学校 増井 優翔

僕がオーストラリアで学んできたことは、主に4つです。

1つ目は、森林火災についてです。人間による二酸化炭素の排出増加により、オーストラリアでは毎日必ずどこかが燃えていると聞きました。森林火災が起きると、消防隊はコアラやリスなどの動物を助けに行きます。1人で21匹助けたこともあると聞き、驚きました。どんなことが起きてもいいように、消防車の中にはいろいろな物が入っています。日本も、異常気象などの深刻な環境問題が出始めています。美しい森林を守るために、自然の大切さを皆が考えるべきだと思います。



左側が私です

2つ目は、海洋プラスチック問題です。ドルフィンディスカバリーセンターでプラスチックまみれのイルカが発見されました。とても深く刺さっており、プラスチックゴミの多さを実感しました。オーストラリアはストローを紙にすることや、ビニール袋をなくすなどの対策、工夫が行われています。それでもプラスチックが減らないのは、オーストラリアだけでは手に負えないからです。日本でも、ストロー廃止など積極的にプラスチックの使用を制限し、世界全体で考えていかなければならない問題だと思います。

3つ目は、多様な文化を認め合っていることです。アダムロード小学校に行った時、ヒシャブを身に付けている生徒がいました。異なる文化をもっている、周りの人達は気にせずその生徒と話していて、とても楽しい昼食になりました。僕は、日本で外国人と接するときも、日本人は優しいと思われるような行動が取れるようになりたいと思いました。皆に優しく、平等に過ごすことの大切さを学びました。

4つ目は、コミュニケーションの取り方です。ホストファミリーと買い物をした時、お母さんがレジの人と気軽に喋っていました。僕も声をかけてみると、笑顔で返してくれて、なぜか僕も英語が分からないのにとっても嬉しい、感じたことのない不思議な気持ちになりました。コミュニケーションの取り方は人々の優しさとも関係があり、コミュニケーションにより協力しやすい関係になり、新しいことを始めたり、国の改善などの大きなことへと繋がっていくことが分かりました。日本でも絆を深めたり仲間と協力したりして、大きなことへと繋がっていきたく僕は思います。

オーストラリアの人は積極的に絆を深め、積極的に協力し、積極的に意見を言うことがとても大事だということを伝えてくれました。この3つの基盤が、街づくりやボランティア、公共施設など、いろいろなことに繋がっていました。

日本はオーストラリアと同じように、固有種がたくさん存在しています。オーストラリアのような自然の守り方を見本に、日本も自然を守って行かなければならないと思います。日本人も積極的にコミュニケーションの取り、皆が自然の大切さを知り、守れるようにしたいとオーストラリア派遣で学びました。

僕のオーストラリアでの体験

烏山小学校 松原 謙信

僕は第 30 回世田谷区小学生海外派遣団の一員として、世田谷区の姉妹都市のオーストラリアのバンバリーに行ってきました。

市役所では、子どもの頃に海外派遣で世田谷区に来た経験のある市長さんにお会いしました。

現地の動物園では、コアラを抱っこしたり、エミュやカンガルーに餌をあげたり、ウォンバットやブラックスワンといった珍しい動物を見ることができました。

消防署やナショナルパークでは、森林火災が大きな問題であること、野生植物を守るため立入禁止区域があること、消防署やドルフィンセンターやナショナルパークでは、森林火災が大きな問題であること、またドルフィンセンターでは、プラスチックが海を汚したり、海亀がプラスチックをクラゲと勘違いして食べてしまい命を落とすなどの環境問題があることを学びました。外食先で紙のストローが増えたり、ビニール袋が有料化しているのは、こういう理由からきているのかなと思いました。

先住民アボリジニの方からは、移住しながらブーメランで狩りをしていた昔の生活について話を聞きました。

現地の小学校の敷地はとても広く、校舎はほぼ 1 階建てでした。日差しが強いため外では制服の帽子を被っていました。僕たちはソーラン節を、現地の小学生は国歌や校歌を披露しました。一緒に授業を受け、校庭でバスケや食事をしました。オーストラリアではクリケットが人気のスポーツだと言っていました。ずっと勉強を続けている英語で会話できてうれしかったですが、自分の国について説明するためには、まず自分がよく分かっていないと難しいと気づきました。今後、外国の方と話す機会に備えて、日本についてもっと勉強しなければと思いました。

ホームステイ先の家はとても広く、2 人暮らしなのになんと 15 部屋もありました。家の中でも土足なので玄関に靴箱がなく、シャワーとトイレが同室だったり、主食はパンでほぼ毎日ポテトを食べました。文化や言語の違う相手と仲良くなるためには、「相手のことを知りたい、理解したい」という気持ちが大切だと思いました。

その他、街中でとても驚いたことがありました。知らない人同士も笑顔で挨拶をしたり、手を振ってくれたことです。フレンドリーで素晴らしい習慣だと思いました。僕も、笑顔や挨拶を大切にして、相手を思いやる気持ちを見習いたいと思いました。

いろいろな場所に行き、このような素晴らしい体験ができたのも、世田谷区の教育委員会の先生方や、現地の皆さん、家族のおかげです。また、同学年の派遣団のみんなと行ったことで、自分では気づけなかったことに気づけたり、楽しさや感動を共有することができました。

今回オーストラリアに行って「直接見て触れて聞いて学んだこと」「自分の英語で、ホストファミリーや現地の人と話したり、友達の通訳をして役に立てて嬉しいと感じたこと」を大切に、これからも英語や海外と日本の勉強を続けて、将来、外国との架け橋になれるように頑張りたいです。貴重な経験をさせていただき、本当にありがとうございました。



コミュニケーションの重要性

千歳台小学校 横田 暁

11月2日から11月10日までの9日間、世田谷区の小学生海外派遣でオーストラリアのバンバリー市に行ってきました。初日の羽田空港では、ワクワクする反面、あまり言葉が伝わらない国に行くという不安もありました。

ぼくのホストファミリーは、お母さんと少し年上の二人の姉妹でした。最初は言葉がわからなくて大変でしたが、わかりやすく話してくれたり、自分からもジェスチャーを交えて話をすることで、だんだんとコミュニケーションがとれるよう



うになりました。お母さんが作ってくれた手料理はどれも美味しく、中でもミートパイや野菜ロールは大好きでした。お姉さんたちも優しく、一緒に映画を観たり、一緒にビーチで遊んでくれたり、カードゲームをしてくれたり、とても楽しかったです。ホストファミリーと別れる時はみんなハグをして別れをお楽しみしましたが、とても悲しかったです。

ぼくは、姉妹都市委員会の人たちとの食事のときに英語のスピーチをする役目だったのでとても緊張しましたが、気持ちを込めて話すことができました。また、ぼくはオーストラリアの環境保護が研究課題だったので、実際にバンバリー市の市長さんに取り組みを聞いたところ、海の砂浜の浅瀬にネットをはってプラスチックゴミなどが貯まるようにしたり、市長さんが直々に1つ1つの工場をまわってプラスチック製品が生産されないように交渉しているという話を聞いたことが、とても心に残りました。なぜなら、わざわざ市の一番偉い人が1つ1つの工場をまわって交渉することは日本ではほとんど行われていないと思ったからです。

ぼくは今回の海外派遣で大切だと思ったことはコミュニケーションの大切さです。現地の小学校を訪問した時に、同年代の人たちとティーボールというスポーツをしました。ここでも最初は何を話しているのかわからず混乱してしまいましたが、自分から勇気をもって積極的に話しかけたり、ジェスチャーなどでコミュニケーションをとったりすることで、すぐにうちとけて仲良くなることができました。言語が違う国では、自分から話そうと思わなければ何もできないし、逆に話そうと思えば違う国の人とでも友達になれるということ学びました。今回の派遣で訪問したオーストラリアでは、楽しいことがたくさんありましたが、一番嬉しかったのは、遠い海の向こうにもう一つ自分の家族ができ、違う国の学校の人たちと頑張ってお話することでたくさんの友達ができ、最後にこのような経験をさせてくれた、世田谷区、バンバリー市の方々やお父さんお母さん、困ったときに助けてくれた引率の先生や楽しい時間をともに過ごした15人の仲間たちに感謝の気持ちでいっぱいです。今後の生活でも積極的にコミュニケーションを取ったり、また外国に行く機会があったらこの経験を活かしたいです。

オーストラリア海外派遣で学んだこと

千歳台小学校 葭谷 梨花

私は第 30 回世田谷区小学生海外派遣団、絆組の団員として 2023 年 11 月 2 日から 10 日までの 9 日間、オーストラリアへ行ってきました。今回の海外派遣でのテーマは大きく 2 つありました。「オーストラリアの人たちがどのように大自然や動物たちと過ごしているか」と、「オーストラリアの SDGs について」です。オーストラリアでの体験を通じて学んできました。



右から 2 番目が私です

まずは、ホストファミリーと休日を過ごすことで絆を深めたことです。ホストファミリーと一緒に生活して行くことで

日本との暮らしの違いについて実際に体験してみてよく分かり、とても驚きました。例えば、買い物するときに困っていたらそばにいる人が手伝ってくれたり、初めて会う子とも気軽に遊んでいたりと、日本ではあまり見かけない行動がとても素敵だなと思い感動しました。

次に学校訪問です。アダムロード小学校では生徒がオーストラリアについてたくさん教えてくれたり、一緒にアクティビティをしたり、とても楽しい時間でした。言語は違うけれども言葉の壁を乗り越えて仲良くできることが分かり、嬉しかったです。キャリーパーク小学校では絆組の代表としてスピーチを担当しました。とても緊張したけれども生徒が「fight」と言ってくれて安心でき、うれしかったです。学校訪問を通じて得られた海を超えた友達との思い出は忘れません。

そして、ライフセービングクラブと水族館での体験です。海に入る機会が多いオーストラリアの人々を守るライフセービングクラブのトライアスロンやサーフボードでの訓練は見ていてとても過酷でした。私たちが砂の上でリレーやビーチフラッグを体験しましたが足が持って行かれてとても大変でした。人々の命を守るために、日々訓練する姿に感動し、素晴らしいものを見学できてよかったです。水族館では、オーストラリアの海で暮らす生き物を観察しました。海で暮らす生き物と人の距離感がとても近くて驚きました。その中で、プラスチックを食べてしまう海で暮らす生き物もいるという話を聞いて、1 匹でも多く安全に暮らせるように少しずつゴミを減らして快適なるようにしてあげたいと思いました。

オーストラリアでの体験を振り返ると路上のタバコやポイ捨てが少なかった気がします。一人一人が自然や動物との共存を考えて、住んでいる場所を大切に、よりよくしようとしているのではないかと感じました。

この海外派遣で体験したことや学んだことを今後に活かしたいと思います。また私の周りの友達にも伝えたいと思います。もっとより良い暮らしのために「絆組」の 16 人が学んだことが多くの人に知ってもらえたらと思います。

最後に、今回の海外派遣に協力してくれた世田谷区、派遣団の引率の先生、オーストラリアで出会った皆さん、そして絆組のみんなに感謝します、この 9 日間で得られて出合いや経験は一生忘れません。ありがとうございました。

世田谷・バンバリ

オーストラリア派遣団引率 用賀小学校 主幹教諭 鈴木 裕介

バンバリーのメインストリートの商店街には、たくさんのお店に「世田谷・バンバリ」のステッカーが貼ってありました。世田谷では見かけない光景に、感銘を受けたことを覚えています。市役所に徒歩で向かう道中、「自分たちは世田谷から来ました」とそのステッカーを指差し、店先にいた店主の方に思わず話しかけてしまいました。その方は、暖かく挨拶を返してくれました。日本祭りというお祭りがあって、その時にステッカーを貼ったこと、世田谷は昔から姉妹都市だから親近感があることを教えてくださいました。



想像していた以上に、バンバリーの市民には世田谷が身近なことに驚き、世田谷でもこのような取り組みができれば交流が深まるのではないかと考えました。

11月4日（土）、子どもたちがホームステイに行っている中、引率者はバンバリーのマーケットで「日本文化を広める活動」に取り組みました。「世田谷・バンバリ」の幟を立て、折り紙や紙風船、習字などを紹介しました。興味を持ってくださる方が多く、たくさんの方と交流することができました。中には、日本祭りに関わっている方や、数年前に子どもが世田谷に交流に行ったという方も何人かいました。ある方は、「世田谷に行った娘を連れて戻ってくる」ということで、娘さんとお話をすることもできました。話をしていく中で、彼女は平成31年度に学校交流で用賀小に来たことがあると分かりました。和太鼓を叩いたことや、日本の踊りを見せてもらったこと、一緒に体育の授業をしたことを覚えているようで、当時おもてなしをした側の私も嬉しい気持ちになりました。縁を大切にとよく言われますが、縁が繋がったことを実感し、こうして世田谷とバンバリーの縁に関われたことを光栄に思います。

派遣団の子どもたちは、この9日間で大きく成長をしました。慣れない環境の中でしたが、様々な場面で臆することなくコミュニケーションをとり、あいさつをしたり、自分の気持ちや希望を伝えたりすることができました。訪問先でのパフォーマンスも回を重ねるごとにレベルアップして、バンバリーの方に大いに喜んでいただくことができました。言葉や体を使って、バンバリーの方々と積極的に関わる姿は、微笑ましく、また、たくましさも感じるものでした。自分の課題についても、意欲的に調べ、質問をしたり、インタビューをしたりする姿が見られました。目的意識があることが、交流の充実に繋がったのではないかと思います。この経験や解決した課題等について、彼らが世田谷区に還元することができるように、引き続きサポートしていきたいと思えます。

今回、様々な方の支えの中で充実した9日間を過ごすことができました。感謝いたします。バンバリーの方々はホームステイの受け入れや、ドルフィンディスカバリーセンターでのボランティアガイドなど、生活の中で様々なボランティアに取り組んでいるということでした。そのような姿を拝見し、私自身も地域コミュニティのために自分ができることをしていかなければいけないと感じました。まずは、ホストファミリーとしてバンバリーの子どもたちの受け入れに立候補したいと思えます。

姉妹都市『バンバリー市』との交流を通して

オーストラリア派遣団引率 船橋小学校 主任教諭 越河明子

今年度、世田谷区の海外派遣事業の引率として、海外の文化や社会的取り組みに興味・関心をもって参加した児童の支援、そして姉妹都市との交流に取り組みました。

オーストラリア滞在時、児童は環境問題などそれぞれがもつ課題について、ホームステイ先の生活の様子から関連するものを見出したり、質問したりするなどして自ら工夫し課題解決の手掛かりとしていました。意欲的に学ぼうとする児童の姿から、海外派遣の意義を感じる事となりました。



左が私です

児童は、国際交流の取り組みとして、各訪問先での英語でのスピーチにも挑戦しました。事前学習会から英語に触れる機会を増やし、練習を進めてきました。児童からは、たくさんの海外の人達を前にスピーチする経験によって、外国語学習への意欲が高まったという感想が聞かれました。世田谷区の小学生代表として思いを伝えようと堂々と話す様子は、とても誇らしいものとなりました。

具体的な取り組みとして、2校の小学校を訪問しました。バンバリー市では、日本語を始め中国語やスペイン語などの第二外国語のカリキュラムが組まれおり、特に日本語を教えている学校の割合が多いとのこと。各校とも日本語教室も設けられていて、現地の子供たちがより日本や日本語に親しみが持てる環境であったことが印象的でした。オーストラリアの小学生たちから日本語で「こんにちは」と声を掛けてもらうだけで、両国の子供たちの距離が近付いていく様子が伺えました。派遣団の児童たちは、コミュニケーションを取る上で、挨拶の大切さを改めて実感したようです。

また、引率者としての交流事業の一環としてバンバリー市で月2回開催されているフリーマーケットの一角に世田谷区の紹介コーナーを設けました。日本の文化を伝えるため、折り紙や書道のデモンストレーションを行い、日本に興味があるというご夫婦や若者など、友好的なバンバリー市の人たちと交流の時間をもつことができました。学校などを通して世田谷区が姉妹都市であることが知られており、児童・生徒の派遣が、姉妹都市として、日本とバンバリー市の人々をより身近な存在とさせていることが分かりました。

オーストラリア団は今回の派遣に際し、クラスの名前を『絆組』と名付けて活動に取り組みました。児童たちは、ホームステイ先の家族や日本語で声をかけてくれた現地の小学校の子供たち、そしてこの事業を支えてくれた方々の、思いや優しさを感じ、『絆』を実感することができたようです。『絆組』の児童は、仲間と共にかげがえのない時間を過ごすことができたのではないかと感じています。

児童が実際に見て感じ取ることの大切さや、実際に話して相手を理解することの大切さに気付くといった貴重な場面に引率として同行し、立ち会うことができ感謝しています。この体験を通して、児童の視野の広がりや違う国の文化や取り組みを見て感じたことを世田谷区の友達に伝えていってもらえること、また自身の成長にどう活かしていくのか今後の『絆組』の児童に期待しています。

オーストラリア、子どもたちとの最高の冒険

オーストラリア団引率 教育指導課指導管理係 杉崎 朋美

今回の派遣事業は、新型コロナウイルス感染症拡大による事業休止後、初めての再開でした。事務局としてこの事業を進めるにあたり、大きな壁ばかりであり、正直不安ばかりの毎日でした。それでもなんとか派遣当日までたどり着き、11月2日、オーストラリア団の引率として日本を発ちました。(初海外!!)

私は、挨拶程度しか児童たちと関わりがなかったので、孤独なオーストラリア生活を覚悟していましたが、すぐに打ち解けてくれて、バスの中で、2時間弱ずっと話しかけてくれた児童がいたのも、いい思い出です。

動物好きな私にとってオーストラリアはとても魅力的であり、特にコアラを抱っこした時の私の目の輝きといったら、児童たちをはるかに凌駕していたのではないのでしょうか。そんなコアラたちを、山火事の多いオーストラリアの方たちは大切に保護しています。消防署で山火事の話



聞き、バンバリー市の自然と共存する様子に触れ、環境保護の大切さを改めて感じました。環境問題を研究テーマにしていた児童も多かったので、皆熱心に話を聞いていました。一方、カンガルーが害獣扱いされていることもあると聞いた時は、驚きと、やはり少し胸が痛みました(笑)。

児童たちの目が一番輝いていたのは、ホームステイ明けだったと感じます。児童たちに「この派遣中、何が一番楽しかった?」と聞くと、ほぼ全員が「ホームステイ!!」と答えてくれました。見せてもらう写真の中の顔は、どの子もとびっきりの笑顔でした。何でもオンラインでつながれる現代ですが、実際に肌で感じることでしかできない経験を、児童たちは全力で感じてくれたのではないかと思います。

この派遣事業では姉妹都市交流も大きな目的です。児童たちは学校訪問でも積極的に折り紙やソーラン節を教えたり、一緒にスポーツをしたりして汗を流していました。そんな中で1番印象的だったのは、2校目の学校訪問に向かう際に、「次、最後だから、今までより1番すごいものにしようよ!」と、引率からではなく児童たちが自主的にバスの中で話し始めたことでした。この短い期間で、自分たちの役割をしっかりと理解し、確実に成長していることを感じました。ソーラン節の入りである「かまえっ!!」の掛け声で児童全員が構えた時、ビデオを撮りながら込み上げてくるものがありました。

今回、この派遣事業を成功させるために動いてくれた方がたくさんいます。バンバリー市職員を始め、姉妹都市委員会の方、ホストファミリー、そして、急な行程変更に対応し続けてくれた東武トップツアーズ株式会社、日本に残り、国内対応を全て行ってくれた細川さん、児童たちの統率や事業の目的を考えた導きをしてくれた井元団長、引率の鈴木先生、越河先生、そしてそして、現地で惜しみなく各方面の調整をしてくれた Qing さん、ズーさん、添乗員のマリコさん、本当に感謝の気持ちでいっぱいです。深く、御礼申し上げます。

昨年の統一公募から携わった児童たちがこの事業を通して大きく成長したこと、本当に誇りに思います。素敵な9日間を一緒に過ごしてくれて、ありがとう!

8 オーストリア団 派遣報告



(1) オーストリア ウィーン市 ドゥブリング区について

ウィーン市はオーストリアの首都です。東京と同じように23の区があります。ドゥブリング区は市の北西部に位置し、第19区と呼ばれています。豊かな森と美しいドナウ川に囲まれ、ぶどう畑の広がる閑静な住宅地です。音楽の都ウィーンにふさわしく、ベートーヴェンゆかりの地としても大変有名です。区内には、かつてベートーヴェンが住んでいた家や散歩した道が歴史のままに残されています。また、交響曲第3番『英雄』や第6番『田園』はこの地で生まれたといわれています。



■ドゥブリング区の概要■

面積：約 25 km²

人口：約 6 万 6 千人

東京からの所要時間：約 13 時間

東京との時差：-8 時間

世田谷区とドゥブリング区はともに23区の1つであること、域内に雄大な川が流れていること、緑豊かな住宅都市であること。このような共通点から、両区は1985年5月姉妹都市提携を行いました。1992年から小学生交流が始まり、それ以来、世田谷区の小学生が毎年*ドゥブリング区を訪問しています。また、教育分野以外においても、両区内の合唱団の共演コンサートなども行われています。 ※・・・令和2年～令和4年度は行っておりません。



(2) オーストリア団 日程表

| | 月 日 (曜) | 発着地/滞在地 | 現地時間 | 交通機関 | 内 容 |
|---|---------------|--|---|---------------------|--|
| 1 | 11月4日 (土) | 区 役 所 発 成 田 空 港 発 イスタンブール着 イスタンブール発 ミュンヘン着 | 05:30 06:00 10:15 18:00 20:40 24:00 03:20 | 専用バス 航空機 専用バス | 区役所集合 成田空港へ イスタンブールへ ミュンヘンへ 到着後、専用バスにてザルツブルクへ移動 ホテル着 ザルツブルク 泊 |
| 2 | 11月5日 (日) | ザルツブルク滞在 | 10:00 17:00 | 専用バス | ザルツブルク市内見学 ミラベル公園・ペーター教会・音楽祭広場 ・モーツァルト生家・レジデント広場 ・ホーエンザルツブルク城 等 ホテル着 夕食(ホテル) ザルツブルク 泊 |
| 3 | 11月6日 (月) | ホ テ ル 発 ザルツブルク発 ウ ィ ー ン 着 | 08:00 11:00 17:00 | 徒歩 列車 専用バス | 駅へ 列車にてウィーンへ 到着後、ウィーン市内見学 昼食(市内レストラン) シェーブルン宮殿・ウィーンの森 等 ホテル着 夕食(ホテル) ウィーン 泊 |
| 4 | 11月7日 (火) | ウ ィ ー ン 滞 在 | 08:15 14:00 17:00 | 専用バス | 学校訪問①(昼食) 世田谷公園 ベートーヴェン博物館見学等 ホテル着 夕食(ホテル) ウィーン 泊 |
| 5 | 11月8日 (水) | ウ ィ ー ン 滞 在 | 08:15 17:00 | 専用バス | 学校訪問②(昼食) 区長表敬訪問 ホテル着 夕食(ホテル) ウィーン 泊 |
| 6 | 11月9日 (木) | ウ ィ ー ン 滞 在 | 09:30 17:00 | 専用バス | 自然史博物館 昼食(市内レストラン) ウィーン市内見学 シュテンファン大聖堂・ケルトナー通り散策 ホテル着 夕食(ホテル) ウィーン 泊 |
| 7 | 11月10日 (金) | ホ テ ル 発 ウ ィ ー ン 発 イスタンブール着 イスタンブール発 | 06:30 10:05 14:20 15:20 | 専用バス 航空機 | 空港へ イスタンブールへ 成田空港へ 機中泊 |
| 8 | 11月11日 (土) | 成 田 空 港 着 成 田 空 港 発 区 役 所 着 | 09:15 11:00 12:30 | 専用バス | 到着、入国審査、通関手続 世田谷区役所へ 帰国式後、解散 |

(3) オーストリア団 写真



11月4日 出発



11月5日 ミラベル庭園



11月5日 ホーエンザルツブルク城からの景色



11月6日 ウィーンの森 展望テラス



11月6日 エリザベート像



11月6日 シェーンブルン宮殿



11月7日 Maria Rejina High School 訪問



11月7日 世田谷公園



11月7日 ベートーヴェン博物館



11月8日 Musik Mittelschule Pyrker 訪問





11月8日 ウィーン市ドゥプリング区 レッシュ区長 訪問



ドイツ料理をみんなで堪能!! 肉料理とチーズ料理が多めです



11月9日 中央墓地



11月9日 ウィーン自然史博物館



11月9日 ベートーヴェン像



11月9日 シュテンファン大聖堂



11月9日 ラートさんとお別れ



11月10日 成田空港へ出発



11月11日 帰国



11月11日 中村さんに挨拶

(4) オーストリア団 児童・引率報告書

○児童報告書（五十音順）

- 船橋小学校 石黒 義啓 「クラシックの街で僕が発見したこと」
- 松沢小学校 戎田 仁奈 「まるで別世界 オーストリア！」
- 明正小学校 片柳 尚 「オーストリアの城と宮殿で学んだこと」
- 経堂小学校 小西 桃寧 「つながる」
- 池之上小学校 小平 笑美加 「オーストリアの街並みについて」
- 九品仏小学校 坂本 菜央 「夢のような 国、オーストリア」
- 砧南小学校 佐々木 絢斗 「オーストリアでの旅」
- 八幡山小学校 島川 航一 「美しい国オーストリアで考えたこと」
- 尾山台小学校 瀬戸口 楓果 「環境先進国オーストリアで学ぶ SDGs」
- 松丘小学校 仙水 悠貴 「一生の思い出」
- 代田小学校 檀 陽太 「オーストリアで見つけた大自然」
- 代沢小学校 土屋 莉々衣 「オーストリアに danke schön！」

- 用賀小学校 福元 賀子 「私は小さな外交官」
- 笹原小学校 細田 怜 「オーストリアで学んだこと」
- 八幡小学校 松永 桜 「初めての国際交流の経験」
- 下北沢小学校 山下 環 「ホーエンザルツブルグ城の思い出」

○引率報告書

- 引率 砧小学校主幹教諭 今野 仁英 「オーストリアでの日々を振り返って」
- 引率 桜丘小学校主任教諭 七尾 めぐみ 「グローバル化が進む現代における実体験のもつ意義について」
- 引率 教育指導課指導管理係長 野嶋 陽子 「4年ぶりのオーストリア海外派遣事業」

クラシックの街で僕が発見したこと

船橋小学校 石黒 義啓

バイオリンを習っていた僕は、クラシック音楽を聴くことがあった。その時ふとオーストリアで有名なモーツァルト、シューベルト、ヨハンシュ・トラウスなどの作曲家達はどの様な風景を見てどの様な暮らしをして名曲を作っていたのかを知りたいと思い、オーストリアの海外派遣に参加した。オーストリアに着いた最初の都市はザルツブルクだった。僕たちが着いた時刻が夜だったので、外は暗くて何も見えなかった。



2日目に、朝ご飯を食べにホテルのレストランに行き、食卓に座った瞬間、レストランの窓から見たのは日本とは違う色々な建物、そして、後ろにそびえ立つホウエンザルツブルク城さらにその後ろにある少し雪が残ったアルプス山々だった。景色を見て僕の頭の中には、ハリーポッターの hogwarts 城が浮かんだ。ザルツブルクで生まれたモーツァルトはこのような自然や景色に囲まれた中で、生まれ育ったから素晴らしい曲をたくさん作れたのだと僕はそう確信した。

3日目になるとザルツブルクからウィーンへ列車で移動した。電車が走って10分ほど経ったころ、僕の目に入ってきたのは緑がいっぱいの牧場だった。その牧場はとても広くたくさんの牛が草を食べていて、長閑だ。オーストリアの作曲家達も同じように思ったに違いない。ウィーンについた時、僕の目の前に見えたのは牧場やザルツブルクの街とは違う景色だった。ウィーンは高い建物が多く、周りを見渡すと色々な形でカラフルな建物がたくさんある。そして街中で香水のいい匂いがした。ウィーンは自然が豊かでどこも建物が綺麗だった。この様な場所で過ごしたからオーストリアですばらしい作品を作れるのではないかと僕は思った。

4日目の学校訪問の時、オーストリアの子供たちがどの様な学校生活をしているのかわかった。オーストリアの学校は音楽の授業が多いそうだ。音楽の授業で歌を披露してくれた生徒たちはすごく歌声が綺麗だった。5日目は、小学生から中学生まで一緒に学んでいる学校へ行った。音楽の授業を体験させてもらった時、僕が知らない楽器がたくさん出てきた。たくさんの楽器を使ってみんなで演奏してとても楽しかった。こうして楽しく学ぶことができる環境だから音楽の才能が優れていくのだなと僕は感じた。

日本は野球やサッカーが人気だ。僕も野球をやっている。友達が区長訪問の質問タイムで人気なスポーツはなんですか？と聞いた時、区長さんは「オーストリアで人気なスポーツはスキーだよ。なぜスキーが人気かということ、オーストリアは日本より雪が降ることが多いから」と教えてくれた。僕は住んでいる国や環境、自然によって人気なスポーツも変わっていくのだなと思った。僕はこの旅で自然や暮らし、建物や環境で好きになる芸術やスポーツが変わることがわかった。それにより伸びる才能も変わるのかもと思った。もっと他の国も見てみたい。

まるで別世界 オーストリア！

松沢小学校 戎田 仁奈

私のテーマは音楽家についてと学校についてです。

私がオーストリアに行き心に残ったことは、街並みや建物の美しさです。修道院、教会、宮殿などの古い建物が多く、建物の色を工夫したりしていて、ヨーロッパらしいクラシックな街並みがひろがっていました。時期的に紅葉がとても美しかったです。オーストリアは、古い建物の外装は変えず、中だけ住みやすく改装しているそうです。地震があまりなく、石で建物を建設しているため、昔の街並みが残しやすいことがわかりました。ザルツブルクではモーツァルト生家に行きました。シェーンブルン宮殿



で演奏したことが有名なモーツァルトが、宮殿から現代の車でも3時間以上も離れた場所に住んでいたことを意外に感じました。中は狭くて、天井が低く、ピアノも想像以上に小さかったです。ウィーンではベートーヴェンの家に行きました。耳が聞こえないことに気づくきっかけとなった教会の鐘は、徒歩3分くらいの場所にありました。特殊な加工をしたピアノを見て、耳が聞こえない苦悩をかかえながら作曲を続けていた熱意を感じました。

どちらの家も、豪華な宮殿とは全く異なっていました。今後ピアノをひくときは、私がみた、彼らの環境や気持ちを思い浮かべて演奏したいと思いました。

ウィーンではベートーヴェンの家の他に自然史博物館にも行きました。中に入ると博物館には、見たこともない数の展示品がありました。なぜなら、オーストリアの女帝マリアテレジアの夫『フランツ一世』が世界中の学者や冒険家達から次々と集めていたからです。オーストリアは、今では小さな国ですが、当時は、世界中から宝石や鉱石、そして化石、隕石、生き物の剥製など数々のものを集めることができるほどの権力があつたことに驚きました。

学校訪問では、2つの学校を訪問しました。学校では音楽の授業と体育の授業と折り紙の授業をしました。中でも体育の授業が心に残りました。体育の授業は日本とは違い、男女わかれて行きます。現地の子たちと交流しながら体操をしたり、○×ゲームをしたのがとても楽しかったです。みんなで楽しくたくさん運動ができてよかったです。

2校いったうちの1校には、教会が作られていました。そこではミサを行うそうです。ミサは神様に感謝することで、自分のために何かしてくれた人に感謝するのは、とてもいいことだと思いました。現地の子はみんな優しく、仲が良く、フレンドリーでした。日本の子は恥ずかしかったり、自分から話しかけることが苦手な子も多いので、オーストリアの子たちを見習えばたくさん友達ができると思いました。

私は今まで日本以外の国に行き勉強したことがありませんでした。今回の海外派遣で外国の文化や伝統を直接見たり、肌で感じたり、聞いたりしたことで国際的視野が広がり、外国のことについて知ることができました。この経験を通して、外国に留学したり、外国と関わる仕事をしたいと思いました。

オーストリアの城と宮殿で学んだこと

明正小学校 片柳 尚

オーストリアへの海外派遣があると聞いた時、私はとてもわくわくしました。私は日本の歴史が好きで、よく日本の城を見に行くので、日本とオーストリアの城の違いについて知りたくなりました。調べてみるとオーストリアにはホーエンザルツブルク城という城があることが分かりました。日本の城とは見た目が全然違うのに、山の上であって、川の近くにあるところが私の好きな愛知県の犬山城に似ているなと思いました。現地に行って、似ている点、違う点を見るのが私の今回の目当てとなりました。オーストリアについて歴史の本を読んでみると、今まで知らなかったヨーロッパの歴史について知ることができました。



ホーエンザルツブルク城はザルツブルクの旧市街から見上げる場所にあり、登るためにモーターカーに乗りました。ホーエンとは「高い」という意味だそうです。石垣は日本の石垣とは違って、厚さの同じ石を積み上げて、土や砂で間をうめてできていることがわかりました。日本と違ってオーストリアは地震がないそうで、歴史のある建物がたくさん残っていることがわかりました。日本の城の天守は、狭くて人が住んではいませんが、ヨーロッパの城は寝室や居間があってとても広く、天井の装飾がきれいだった点が違っていました。

ザルツブルクは日本で見た「サウンド・オブ・ミュージック」という映画の舞台だったので、ミラベル宮殿に行くのが楽しみでした。映画の中でドレミの歌を歌っていた階段で、みんなで「喜びの歌」と「さくらさくら」を歌いました。お昼に入ったレストランが、ヨーロッパ最古、もしかしたら世界最古といわれているレストランで、洞くつみたいな場所でオーストリア料理のシュニツェルを食べることができました。とても歴史のある街なんだなと思いました。

ウィーンで見たシェーンブルン宮殿では、バロック様式というきれいな天井画、マリア・テレジアの肖像画、豪華なシャンデリアを見ることができました。展示の中には伊万里焼もあって、日本の芸術が世界で認められていてすごいなと思いました。

一緒にオーストリアに行くみんなは、音楽が好きだったり自然が好きだったり、いろいろな目当てがあっておもしろいなと思いました。みんなで一緒に歌の練習をした勉強会はいつも楽しみでした。飛行機の中では映画を見たり、たくさんおしゃべりをしました。だんだんと仲が良くなっているなと思いました。

オーストリア派遣に行くことができ、日本と違う文化や食事を体感して、僕は日本のことがさらに好きになりました。日本のいいところ、海外のいいところを知って、世界で活やくできる人間になりたいと思いました。

つながる

経堂小学校 小西 桃寧

「ついにこの日が来た！」とベッドから飛び起きました。私はワクワクしながら区役所に向かい、どんな派遣生活を送れるのか楽しみにしていました。オーストリアの美しい街並みや有名な建築物に興味を持って参加しました。出発式の挨拶を務め区役所を出て、親と離れる時が来てしまい、私は急に不安を感じました。でもこれもいい経験だと思えば不安は無くなってきました。バスや飛行機での長旅が終わり、オーストリアのザルツブルクについた瞬間私は少しの達成感を感じました。そしてどっと疲れているのに明日からが楽しみで、その日は眠れませんでした。



ザルツブルクでは建物の色がピンクだったり黄色だったり、とにかくカラフルな街並みが印象に残りました。それに一つ一つの建物の細部までこだわりつつ、街全体を見ると統一感があり、街を歩くだけで歴史や芸術を感じ、この街並みが世界遺産に登録されていることも納得できました。

ウィーンにはシェーンブルン宮殿やシュテファン大聖堂などの歴史的建築が多く、どれも素晴らしく美しかったです。シェーンブルン宮殿の内装は特に綺麗でした。天井に描かれたマリア・テレジアの絵は平和、戦争、政治などのテーマがあってとても豪華でした。シェーンブルン宮殿の中には日本の陶磁器もありました。当時の舞踏会の様子が描かれた絵や家族の肖像画が各部屋に飾られ、家族を大切にしていることが感じられました。シェーンブルン宮殿には庭園があり、そこには花や緑がたくさんありました。またウィーンには緑が多く、世田谷区の緑被率が約23%なのに対しウィーンのドゥーブリング区では約50%が緑ということで、非常に緑を大切にし、自然を守っていることもわかりました。

学校訪問では、みんなが私たちのことをもっと知ろうとしたり、自らコミュニケーションを取ろうと言葉が伝わらない中、身振り手振りで話しかけてくれました。時には私からも話しかけて現地の子に日本語を教えてあげました。図工の授業では折り紙の風船を教えて、膨らました時に「Wow!」と驚いてくれました。実際に一緒に折ってみて、綺麗に折れた時に見せてくれた笑顔が1番心に残っています。別れる時に「アリガトウ」や「サヨナラ」と言ってくれて、短い時間だったけれども心が通じ合えた気がしました。

私は、この海外派遣では「つながる」ことを知りました。人とつながる、歴史とつながる、建物とつながるなどと、いろいろなことに気づきました。私は事前にオーストリアについて調べた時、街並みや歴史のある建築物が素敵だと感じましたが、他にも自然や食事、オーストリアの人柄など良い点を感じ、もっと興味を持ちました。今回の海外派遣で忘れられない体験ができ、自分の将来の夢に繋げていきたいです。お世話になった方々に心から感謝します。

Danke schön

オーストリアの街並みについて

池之上小学校 小平 笑美加

私は今回、派遣団としてオーストリアのザルツブルクとウィーンに行きました。実際にオーストリアに行くまでの間、何度か派遣団みんなで集まる学習会があり、挨拶などの簡単なドイツ語や、向こうでドイツ語で歌うベートーベンの喜びの歌の練習などをしました。そうしていくうちに一緒に行くメンバーともとても仲良くなれました。なので、オーストリアまでの飛行機はとても長かったけれど、映画を見たり、おしゃべりをしながらみんなで楽しく過ごせました。

オーストリアに行って私が一番心に残ったのは美しい建物や街並みでした。どこが気に入ったかという、一番は壁の色です。日本では白や灰色などシンプルな色が多いですが、オーストリアは、ピンクや黄色、水色など華やかな色がたくさんあります。さらにとっても興味を持ったのはお店の飾り看板です。洋服屋さんはハサミ、傘屋さんは傘というように、それぞれがなんのお店かわかる装飾がされていてとても可愛かったです。これは昔、文字が読めない人が多かった頃にもみんなが看板を見てお店がわかるようになっていたためだそうです。



オーストリアは日本と違って地震が少ないので昔の建物が多く残っているとも教えてもらいました。私は日本と違い、色や装飾がとても綺麗で華やかなオーストリアの街並みがとても好きになりました。

オーストリアでは学校に行き、交流する機会がありました。私たちが学校に着いて中に入ると、一時間目を一緒に受ける生徒の子達が日本語で「おはようございます！」と言ってくれました。仲良くしてくれようとしているんだなと思って私は嬉しく思いました。学校では、一緒に喜びの歌を歌ったり、体育をしたり、折り紙を一緒に折ったりしました。折り紙は言葉を使わなくてもいいので教えやすかったです。その他にも、お互いのスピーチを「Good! Good!」と褒めあったり、英語でコミュニケーションが取れたのがとても楽しかったです。

また、世田谷区の姉妹都市のドゥブリング区には、世田谷公園という公園があります。公園の中には日本の家のような建物や橋などがあり、まるで日本にいるようでした。40年くらい前に友好の証として作られたそうです。とても遠い日本とオーストリアでこのような交流があるのがとてもいいことだと思いました。オーストリアの子達が日本に来ることがあるなら私の小学校に来てほしいです。

今回、派遣団として初めてオーストリアに行ったことで、日本ではできないことをたくさん体験することができました。また、たくさんの音楽家たちが活躍した事や、美味しい食べ物、そして素敵な建物や街並み風景など、魅力をたくさん知ることができました。派遣団に決まる前までは国の名前しか知らなかったオーストリアですが、今回行ってみて大好きな国になりました。皆さんもたくさん魅力のあるオーストリアに行ってみてください。

夢のような 国、オーストリア

九品仏小学校 坂本 菜央

私は日本との音楽の違い、音楽祭広場、学校の音楽の授業について学びにいきました。まず、日本との音楽の違いです。日本の伝統的な音楽はゆったりとした音楽で少し落ち着いた曲です。しかしオーストリアに行って聴いた音楽はとても明るく、弾んだ音楽でした。なので、聴いていると気持ちが元気になりました。私は、日本の静かでなめらかな音楽もオーストリアの明るくてみんなが元気になる音楽も感じ方は違うけどどちらも良いなと思いました。



次に、音楽祭広場についてです。今、オーストリアは冬なので夏に行われるので音楽祭を見ることはありませんでした。でも、そこを通るととても広くてここに夏になるとさまざまな国の人が集まって演奏、合唱すると思うとワクワクしてきました。私は事前にオーストリアのホールで演奏中に指揮者に合わせて観客が手拍子をして盛り上げている場面を思い出して同じように観客も演奏する人も楽しんでいるのかなと感じました。私が大人になってまたオーストリアに行く機会があれば行って演奏できる楽器を使って外国の人と交流しながら楽しみたいと思いました。

最後に学校の音楽の授業についてです。私達は二つの学校に行きました。するとどちらの学校も「音楽に力を入れている」ということを聞きました。私の学校も合唱団があり音楽に力を入れているのではないかと考えましたが多分音楽の都と言われているのだから私が思っているよりすごいのではないかと感じました。実際に生徒の人が歌を歌ってくれました。聴くと明るくて元気な音楽なのに歌声が綺麗でさすがだなと思いました。また、学校の生徒の人と一緒に円になって演奏しました。私は小さなマラカスのようなものを使って演奏を盛り上げました。楽器自体は私の手のひらよりも小さいのに実際に演奏してみると音がよく目立っていてびっくりしました。日本ではなかなか見かけないものだったし、使ったこともあまり無かったのでこれなら色々な音楽に使えるかなと思いました。このように日本の音楽とオーストリアの音楽では違うところがたくさんあります。私はもともとゆったりとした日本の音楽が好きだったけれど、海外派遣の経験を通してゆったりとしてなめらかな音楽も良いと思うけど楽しくて心が明るくなるオーストリアの音楽も素敵で楽しいなと魅力に気づきました。このことをみんなに伝えて「音楽って演奏、合唱する人自身も聴く人も楽しくて魅力的だな！」と思って音楽を好きになってもらいたいです。

オーストリアでの旅

砧南小学校 佐々木 絢斗

成田空港で飛行機に乗ろうとしたとき、あとちょっとしたらオーストリアにいると考えるとすごく不思議な気持ちになりました。トルコのイスタンブール、ドイツのミュンヘンを経由して、ついにオーストリアに着いたとき、これから始まるんだなとすごくワクワクしました。

ぼくは、オーストリアで印象に残ったことが四つあります。

一つ目は、区長訪問です。区長さんに、ぼくは「住民が住みやすくなるように何か工夫はありますか？」と質問をしたところ、「街に植物などの緑を増やす



ことや、ゴミ箱を増やして落ちているゴミをなくす工夫をしています。」とドイツ語で答えてくださいました。また、日本に来られたときに、街にゴミ箱がほとんどないのにゴミが落ちていなかったことに驚かれたそうで、ゴミを持ち帰る習慣をオーストリアにも取り入れたいとおっしゃっていました。ガイドさんが通訳をしてくださいましたが、区長さんはぼくの方を見て丁寧に話してくださったので、気持ちが伝わりすごく嬉しかったです。

二つ目は、学校訪問です。学校訪問では、二つの学校で音楽、体育、図工の授業を受けました。音楽の授業では、今まで練習をしてきた「さくらさくら」とドイツ語の「喜びの歌」を披露しました。また、ドイツ語の歌を教わり、その歌と「喜びの歌」をオーストリアの生徒たちと一緒に歌いました。図工の授業では、折り紙を教えました。折った折り紙をプレゼントすると、教えていない折り方で船を作ってプレゼントしてくれてとても嬉しかったです。ドイツ語と日本語で言葉は通じないけれど、心は伝わると思いました。

三つ目は、ホーエンザルツブルク城です。戦争中に敵から身を守るために高いところに建てられた城で、ケーブルカーに乗って行きました。城の通路の壁には穴があり、そこから大砲がうてるようになっていました。ホーエンザルツブルク城の「ホーエン」とは、ドイツ語で「高い」という意味で、つい数十分前にいたザルツブルク市街が小さく見え、ずいぶん高いところにいることが分かりました。まるでラピュタの世界のような城で、初めて見る景色に驚きました。

四つ目は、日本と違う文化や建物です。例えば、オーストリアの電車のドアの開け方は、ボタンを押さないと開きません。何で自動で開かないのか不思議に思いましたが、冷気が入らないように必要なドアだけ開ける工夫だということが分かりました。それから、街中の歩道には歩行者用レーンと自転車用レーンがあり、歩道も広く安心して歩くことができました。また、オーストリアには昔の建物がたくさん残されていて、オーストリアならではの文化が大切にされていることがよく分かりました。建物一つ一つの柱や壁に彫刻がされていて、日本とは違う雰囲気の魅力でした。

今回の海外派遣では、たくさんの人にお世話になりました。ぼくは、この貴重な経験をこれからの人生に活かしていきたいです。ありがとうございました。

美しい国オーストリアで考えたこと

八幡山小学校 島川 航一

なんて美しいところなんだろう。

ザルツブルグに着いた初日、古いお城や美しい町をみて、まるでおとぎ話や僕の好きなファンタジー映画の中にいるような気持ちになりました。時差や移動の疲れを忘れて、眠気がふきとんだのを今でもよく覚えています。

僕は、オーストリアにおける環境対策について実際に町を歩いて自分の目で見たいと思っていました。町を歩くと、石畳のきれいな道路には



ゴミ一つ落ちていないことにまずびっくりしました。そして電気自動車がたくさん走っていることに気がつきました。なぜ電気自動車だとわかったかという、交流した学校の生徒から電気自動車のナンバープレートは緑色のマークがついているということを知ってもらったからです。電気自動車を運転しているというだけで周りの人から「かっこいい人（クール）」と思われるんだよと笑顔で話していたのが印象に残っています。

スーパーに入ると、なんと8つの箱があってごみが細かく分別されていました。こんなに長いゴミ箱の列を見たのは初めてです。また、レジ袋は日本のようなビニール袋ではなくて紙袋かエコバックをみんな使用していました。

町を歩いただけで、具体的な環境対策が多くなされていることがわかりました。ぼくは、区長さんと交流したときに、「どうしてオーストリアは熱心に環境保護に取り組んでいるのですか？」とききました。区長さんはおだやかに、「区民一人一人が自分たちの住む地域や環境を守ろうとする意識を高くもっているからなのです」と答えてくださいました。住民一人一人が環境保護を意識した取り組みを実際に行っていることがこの国を美しい国にしているヒントなのだと考えました。

最後にもう一つびっくりしたことがあります。それは2つめの学校を訪問した時のことです。その学校には、なんと35の国、37の言葉を話す子供たちが通っていると教えてもらったからです。八幡山小学校や塾、サッカークラブでは、日本人の友達と日本語で会話することがほとんどで今までいろんな国の子と交流したことはありません。音楽の授業で一緒に歌い、一緒に折り紙を折ったりして、交流の時間を楽しみました。

帰りの飛行機で旅を思い返したときに、オーストリアみたいに文化も歴史も食べ物も性格も宗教も話す言葉も違う人々がみんな自覚をもって環境保護を意識した取り組みをしているということに改めて感動しました。いろんな人がウィーンやザルツブルグという町に住んで、環境や自然を守っていかうと行動していることを「かっこいい」と考えました。

ぼくは世田谷区に戻ってから、オーストリアで得た経験や考えを小学校や地域のみんなに教えたいです。そして、周りのみんなから「かっこいい」と思われる環境保護活動をできるところから取り組んでいきたいと思います。

環境先進国オーストリアで学ぶ SDGs

尾山台小学校 瀬戸口 楓果

私はオーストリアの SDGs への取り組みに興味がありオーストリアの色々な工夫を実際に見てきました。

私たちが移動する時に乗ったバスは電気自動車でした。ドイツ語で「90% WENIGER CO2」と大きく書いてありました。調べてみると「二酸化炭素 90%削減」という意味でした。環境に良い乗り物で移動できてうれしかったです。オーストリアの道路はとても静かでした。きっとほとんどの車が電気自動車だからだと思います。日本でも当たり前のように電気自動車に乗って移動できるようになるといいなと思いました。



街中では、自転車や電動スクーターで移動している人を多く見かけました。環境にも健康にもいいと思いました。ウィーンで乗ったトラム（路面電車）は、段差がないので車いすの人やお年寄りも簡単に乗れるし、ゆっくり動くので景色がしっかり見えて、環境にも人にもやさしい乗り物だということがわかりました。

また、オーストリアでプラスチックの袋は見かけませんでした。ほとんどの人がエコバッグを持っていて、持っていない時は紙袋をもらっていました。日本では有料になっても、プラスチックの袋を持つ人をまだたくさん見かけます。私はいつも何かのためにエコバッグを持っておこうと思いました。オーストリアの人たちが、自然に環境のことを考えて生活していることがわかりました。

他にも気づいたことがあります。空港、ホテル、学校、博物館などにあるトイレのマークが日本と違っていました。女性が赤、男性が青ではなく、どちらとも黒でした。日本のトイレのマークは、色が違ってわかりやすいと思っていましたが、女性が赤で男性が青と思い込んでいたことに気が付きました。

一番楽しかったのは学校訪問です。2校を訪問しましたが、2校とも私たちにやさしく接してくれました。私はドイツ語で挨拶をしました。発音が難しかったですが、ドイツ語で、「ごきげんいかが」と聞くと「グーッ！」と答えてくれてうれしかったです。現地の学校の生徒たちが日本語で「おはようございます」、「こんにちは」などと言ってくれたので、私もドイツ語での挨拶を頑張ろうという気持ちになれました。

事前に調べてからオーストリアに行きましたが、初めて知ることもたくさんありました。人もやさしくて、自然がたくさんあって、街並みが素敵でとても好きになりました。特にオーストリアの石畳やカラフルでかわいい建物をとても気に入りました。歩いていると、石像をメンテナンスしてるところを見かけました。オーストリアの人たちは歴史ある古いものを大切にしていることもわかりました。

日本は独自の文化がある国です。私は、日本の文化や歴史、環境への取り組みなどを勉強して、今度は教える側もやってみたいです。

一生の思い出

松丘小学校 仙水 悠貴

僕は、11月4日から11日まで世田谷区の代表としてオーストリアのザルツブルク市・ウィーン市に行ってきました。

オーストリア海外派遣に参加しようと思った理由は、日本と海外のまちの違いを実際に肌で感じて、その経験を日常生活に活かしたいと思ったからです。

出発日の朝、ついに行くことができると思うと緊張と楽しみが入り混じって少し複雑な気持ちになりました。しかし、オーストリアに着いて、街並みが日本と大きく違う綺麗な景色を見ただけで緊張がほぐれて、ワクワクする気持ちが大きくなりました。

僕がこの海外派遣で特に心に残ったことは3つあります。

1つ目は崖の上にあるホーエンザルツブルク城とその城からの景色です。

昔は今の中国と同じくらいの領土を支配していたオーストリア帝国は他国と戦争することが多く、この城は守りの要として1077年から作られ増築を重ねられた城で、900年以上1回も落城したことがないそうです。断崖絶壁の上であり標高が高く街が一望でき、白と水色の屋根、たくさんの教会、ザルツァッハ川、雪が白く輝くアルプスの山々が見えて感動しました。

2つ目はオーストリアの街並みです。

僕は観光している際に気づいたことがあります。日本では家と家の間には通路がありますが、ザルツブルクでは3階建ての建物が何十軒もつらなって通路が少なかったことです。そこでガイドさんに聞いてみると、建物が連なることにより、戦争の時に敵の侵入を防ぐ城壁の役割を果たし、ザルツブルクを守っていたと教えていただきました。そうした歴史的な建物が多く残っているうえ、とても綺麗な街並みであることにも感激しました。

3つ目はオーストリアの音楽についてです。

ベートーヴェン、モーツァルト、シューベルトなどの偉大な音楽家を輩出した国で、彼らのゆかりの品がたくさん残っていました。例えば、モーツァルトの生家では実際に弾いたと言われるバイオリン、ピアノ、直筆の楽譜などの多数の品物、共同墓地にはたくさんの有名な人の銅像や墓がありました。

このことから国として音楽家を誇りに思っているのだと感じました。

僕はこの体験を、学校生活・日常生活に生かしながら、海外のことにさらに興味をもって知らないことにも目を向けていきたいです。

最後にこのような貴重な機会をあたえて下さった、世田谷区役所の皆様、僕たちに温かく接して下さったオーストリアの方々、親身に支えて下さった引率の先生方、仲良くしてくれた友達、送り出してくれた家族に感謝しています。Danke schön



オーストリアで見つけた大自然

代田小学校 檀 陽太

ウィーンの街は都会なのにリスがいる、と聞いて僕はとても驚きました。東京では、ネズミを見かけることはあってもリスは今まで一度も見たことがなかったからです。もともと動物や自然に興味があった僕は不思議に思い、オーストリア研修で実際に調べてみることにしました。

しかし、ザルツブルグについての瞬間、これは難しいと思いました。まだ11月なのに外はとても寒く、まるで日本の冬のようなからです。オーストリアの緯度は北海道よりも北にあるため、日本よりもずっと寒いのです。僕は、もうリスはとっくに冬眠していると思い、代わりに「森のエビフライ」を探すことにしました。森のエビフライとは、リスが食べ残した松ぼっくりの芯がエビフライみたいな形をしていることから、そう言われています。リスがいなくても森のエビフライを見つければ、リスが住んでいることを証明できるのです。



ウィーンに着いた初日に「ウィーンの森」に行きました。僕はウィーンは日本だと新宿みたいな街だと思っていたので、きっと公園みたいなところだろうと予想していました。ところが実際のウィーンの森はアルプス山脈の最北部に位置する巨大な森でした。ここには、猪や鹿も住んでいて、狩りも行われているそうです。こんな大きな森が都会のすぐそばにあることに本当にびっくりしました。

そこで、ドゥブリンク区の区長訪問の時に、区長さんに質問してみました。区長さんは優しくニコニコしながら「ウィーンの人たちは昔から身の回りの自然を守る意識が高いのです。」と答えてくれました。18世紀以降、何度も森を開発する計画が立ち上がりましたが、そのたびに、市民の人たちから反対の声が上がったそうです。また区長さんは「だから、今もみんなゴミをゴミ箱に入れてくれますよ。」と教えてくれました。確かにウィーンの人たちはよく街中でタバコを吸いますが、道に吸い殻はまったく落ちていないのです。このことから、オーストリアの人々の環境への高い意識がわかります。僕はすごいなと思いました。でも、ウィーンの森では森のエビフライは見つかりませんでした。

翌日、モーツァルトやベートーヴェン、シューベルトなどのお墓がある中央墓地に行きました。ここも森みたいな所で、道の両脇には松の木が茂っていました。最後のチャンスと、松ぼっくりを探しながら歩いていたのですが、なかなか見つかりません。あきらめていた時松ぼっくりがあるのを見つけました。拾ってみると、真ん中がリンゴの芯みたいになっていて、確かにエビフライのようにも見えます。見つからないものがやっと見つかったので、心がスカーッとしました。リスはいなかったけれど証拠が見つかってよかったです。このような自分の目で発見する学習の機会を与えてくれた世田谷区の皆さん、そしてオーストリアで助けてくれたり交流してくれた皆さん Danke Schon!

オーストリアに danke schön !

代沢小学校 土屋 莉々衣

私は、この7泊8日でたくさん学んだことがあります。その中でも2つを紹介します。旅立つ前は、東京の現代的な建物ばかりの街並みを見ながら「オーストリアもこういう場所なのかな? けど宮殿だけは残っているのかな?」と思いながらオーストリアへ出発する日をワクワクしながら待っていました。

オーストリアで私が学んだことの1つ目は、日本よりも昔の建物が多いことです。このことを最初に感じたのは、2日目の朝、初めてザルツブルクのホテルの朝食を食べに行った時です。ホテルの窓から外を見ると建物が東京よりも低くて山々が綺麗に見えました。街の中を歩いていると宮殿のような家や建物ばかりでした。なぜ古い建物が街中にたくさん残っているのかを聞いてみると、地震が日本よりも圧倒的に少ないからだそうです。この理由を聞いて納得しましたが、私は地震が少ないことだけが理由ではなく、昔からある建物を大事にしようと思うオーストリアの人々の思いが現れているんじゃないかと思います。



2つ目は、言語が違っても相手を分かろうとする力が大切だということです。日本語とドイツ語は全く違い、似ているところは一つもないと言ってもいいくらいです。オーストリアで学校訪問を行ったのですが、お互いの言葉が分からないという緊張の中で始まった折り紙を教える時間は私にとってすごく良い経験になったと思います。なぜなら、これから外国の人とは関わる機会が多くなるだろうけど、この経験から私は積極的に話した方が良いと気づけたからです。1回目の学校訪問はあまり積極的に話せず、最後まで緊張したままで終わってしまいました。なので、2回目の学校訪問では、積極的に話すことを心に留めて折り紙を教えると、相手から笑って話しかけてくれたり、「ここはどうするの?」と英語で聞いてくれるなど緊張感はすぐに解けました。オーストリアの人にとって折り紙は異文化です。それでも、オーストリアの人たちは全力で折り紙を折るので私はその子と折り紙に意識を向けるようにすると、困っているところがすぐに分かり、観察力も大切なんだなと思いました。私は、言語が違っても相手のことを分かろうとする力は日頃の観察力や推察力などによっても鍛えられていくと思いました。

私はこのオーストリアへの派遣は、全然似ていない国同士の交流であり、この違いを通してこれらのことを学ぶことができました。これからも外国の人とたくさん交流して、外国の良いところや日本の良いところを伝え合いたいと思います。

最後に、この海外派遣に協力してくださった皆様に心から感謝いたします。そしてオーストリアで私たちに優しく接してくれた方々にこの言葉を贈ります。

Danke schön!

私は小さな外交官

用賀小学校 福元 賀子

音楽の都といわれるウィーンで、モーツァルトやベートーヴェンなど偉大な音楽家たちが、どのように生活し、どんな景色を見て、どんなことを思いながら作曲していたのか現地で体感し学ぶ、という研究テーマを持って、私はオーストリア派遣に行ってきました。

ザルツブルグで訪れたモーツァルト生家には、モーツァルトが生まれた部屋が残されており、実際に使っていた楽器や日用品、直筆の楽譜、髪の毛まで見ることができました。モーツァルトが生活していた場所に自分がいると思うと、不思議な気持ちになりました。



ウィーン北部ハイリゲンシュタットにあるベートーヴェン博物館では、ベートーヴェンが書いた遺書や、ピアノを見ました。ピアノにはプロンプターボックスという器具が設置されていました。これは少しでもピアノの音を聴こえやすくするためのスピーカーの役割をするものです。耳が聴こえなくなって不安や絶望の中にあっても、ベートーヴェンはなんとかピアノの音を聴きたいと願い、耳の治療だけでなく、楽器にも工夫をし、ありとあらゆる手を尽くしていたんだ、と改めてその凄さを感じました。ベートーヴェン博物館、ベートーヴェンのお墓の前で派遣団のみんなまで彼が作曲した「喜びの歌」をドイツ語で歌って捧げました。

偉大な音楽家たちの住居やお墓などを見て、彼らがここで本当に生きていたことを実感し、これまでよりもモーツァルトやベートーヴェンを身近に感じるすることができました。今回オーストリアで感じたことを、今後の私のピアノにも活かしていきたいです。

また、ウィーンでは現地の学校を2校訪問しました。折り紙をいっしょに折っているときに、ペアになった子が「日本語を教えて」と言ってくれたので、「ありがとう」や「こんにちは」などの簡単な言葉を教えてあげると、とても喜んでくれました。彼女の笑顔を見て、日本に関心を持ってくれたことに私も嬉しくなりました。この時、「君たちはオーストリア観光に行くのではなく、外交に行くのです。」と事前学習会で先生がおっしゃっていたことの意味が、少しわかったような気がしました。

日本のことについて教えてあげようと思っても、上手く説明することができず、自分の国のことなのに日本がどんな国か簡潔に説明するのは難しいなと感じました。外国の人に日本の良さを伝えられるように、日本のことももっと知り伝えられる様になりたいと思いました。ドゥブリング区の区長さんが、「ウィーンで1番好きな場所はどこですか？」という私の質問に、地図を指しながら、「ここです。ここからはウィーン全体を見ることができます。」と胸を張って答えて下さった様に、私も日本の良いところを胸を張って伝えられるようになりたいです。

私達が安全に海外派遣に行けるよう力を尽くし支えて下さった皆様、ありがとうございました。

オーストリアで学んだこと

笹原小学校 細田 怜

オーストリアに行く前、僕は日本との違いを学んで来るという目標を立てました。そして、たくさんの違いを見つけることができました。

まずは、景色です。オーストリアは一言で表すと美しい国でした。一番心に残った場所はミラベル宮殿です。ミラベルとは美しい眺めという意味です。映画「サウンドオブミュージック」の舞台としても有名で、映画で歌われる英語版のドレミの歌を友達と聴いたことは一生忘れないでしょう。

オーストリアの街並みは、古い石造りの建築が特徴的で、彫刻など華麗な装飾が素敵です。ザルツブルクでは建物同士がくっついていました。戦争の時に敵の侵入を防ぐためだそうです。美しい街には理由があったのです。

食事にも違いがあります。ザルツブルクにある世界最古のレストラン「サンクトペーター」はなんと803年創業。日本の平安時代から存在しています。オーストリアで一番美味しかったのは、このお店でお昼ご飯に食べたシュニツェルでした。オーストリアの食事は圧倒的に肉料理が多く、滞在中に魚が食べられたのはたった1回だけでした。海が少ないため、新鮮な魚が手に入りにくいそうです。住む場所の違いが、食べものの違いになることがわかりました。

学校も違いました。例えば体育の授業は日本とは違い、男女に分かれて行います。小学5年生から高校3年生まで在籍する学校に訪問した際には、サッカーをしました。2-3人に「ミトマ、ブライトン？」と聞かれて盛り上がりました。ヨーロッパで活躍するサッカー日本代表の三苫選手はオーストリアでも有名人です。野球の話もしましたが、日本とは違ってあまり人気がないということでした。

コミュニケーションの時間があり、ハリー君という5年生の男の子と話しました。言葉が違うので話すのは難しかったのですが、ハリー君に「Do you like Pokémon?」と聞かれました。僕もポケモンが大好きなので、キャラクターの名前を言い合って盛り上がりました。ポケモンがあれば、言葉が全部わからなくても通じ合えると分かり、とても嬉しかったです。

「よろこびの歌」はオーストリア出身の作曲家ベートーヴェンが作った曲です。訪問した2つの学校や、ドゥブリング区の区長さんの前で披露して喜んでいただきました。歌は言葉の壁をこえて心の距離を近づけられるものだと感じました。また、こんなに有名な曲を作ったベートーヴェンは偉大だと思いました。

僕は、食事や交通、建築や学校の様子など違うところをたくさん見つけることができました。それがさまざまな歴史や環境から生まれてきていることもわかりました。けれど、違いだけでなく、同じこともたくさん見つけられました。体育で三苫選手の話をしたときも、ハリー君とポケモンの話をしたときも、喜びの歌を歌った時も、楽しいことでは言葉の違いをこえて、仲良くできることに気がつきました。

時にはアクシデントもありましたが、派遣団の仲間と協力して乗り越えたことはきっと忘れません。今回の経験を一生の思い出とし、大人になってからも生かしていきたいと思います。



左手前が私です

初めての国際交流の経験

八幡小学校 松永 桜

出発日の朝、私は緊張と楽しみな気持ち、不安な気持ちでなんとも言えない気持ちでいました。

成田空港からイスタンブールへ、イスタンブールからミュンヘンへ、そしてバスでザルツブルクへ移動しました。午前3時ごろ、着いたのはまるで美女と野獣の舞台のような街でした。その日は次の日に観光があるため休まなければいけないのに、興奮して一睡もできませんでした。

まず私が持った第一印象は、古い街並みがそのまま残されているということです。

建物の観光では、当時オーストリアを治めていたハプスブルク家のシェーンブルン宮殿というところや、「サウンド・オブ・ミュージック」の舞台のひとつとなったミラベル庭園、ハイリゲンクロイツ修道院などに行きました。特に、シェーンブルン宮殿では、マリア・テレジアが各地を治めている様子を描いた天井絵が、ハプスブルク家の支配力を表していると思いました。



そして、「交流」というテーマで1番重要だった学校訪問と区長表敬訪問では、海外の学校の様子やオーストリアの詳しい文化について知ることができました。

1校目の学校訪問では、たくさんの生徒さんたちが出迎えてくれ、日本語で「こんにちは」と挨拶してくれたことがとても嬉しかったです。オーストリアの学校は日本と学年制度が違って、一つの学校にたくさんの学年が在籍していることや、人によって何年制の学校に入学するかが違うという、文化の違いに改めて驚きました。そして、2校目の学校は、35の国と、37の言語を話す生徒さんたちがおり、国際的な学校でした。一緒に折り紙を折ったラマちゃんは、自分の両親の国籍を地図帳で教えてくれて、とても優しい子供達ばかりだと思いました。区長表敬訪問では、オーストリアについて現地で学んでいくうちに、環境に優しい取り組みについても興味を持ったので、「日本では路面電車など、環境にやさしい取り組みはまだあまり進んでいません。どうしてオーストリアでは環境にやさしい取り組みが進んでいるのですか？」という質問をしました。すると、区長さんは、「オーストリアはEUに加盟しているから、EUの目標を達成しなければいけないのです。そのため、なるべく環境にやさしいまちづくりを目指して様々な取り組みを行っています。」とおっしゃっていました。ひとりひとりが目標を達成するために努力していることを知って、日本でもみんなが協力できるようになるといいなと思いました。

この経験を機に、私は、これからも新しい出会いと経験を大切に、そして、世田谷区や日本がより良い場所になるように、よく考えて、文化の違いを受け入れ、自分の意見を持つようにしていきたいと思いました。最後に、海外派遣の準備をくださった区役所・教育委員会の方々、引率の先生方、ガイドさん、添乗員さん、旅行会社の方々、一緒に旅をした15人の友達、本当にありがとうございました。

ホーエンザルツブルグ城の思い出

下北沢小学校 山下 環

僕はオーストリアで色々なことを学びました。オーストリアは音楽が盛んなため、モーツァルトやベートーベンが住んでいた家や自筆の楽譜を見ることができました。他にもウィーンにある世田谷庭園やザルツブルグにあるミラベル庭園など自然豊かな公園も楽しむことが出来ました。

その中でも一番心に残ったのはホーエンザルツブルグ城です。なぜなら、僕が今回の海外派遣のテーマに選んだのは日本とオーストリアのお城の違いについて調べることだったからです。僕がお城の違いをテーマに選んだ理由は、これまで姫路城や大阪城などにいったことがあり、海外のお城はどのようなものなのか興味を持ったからです。

ホーエンザルツブルグ城は、1077年にザルツブルグを守るために建てられた防衛施設です。1077年の日本は平安時代で、鎌倉時代より100年以上前です。その時代に高さ623メートルにもおよぶ城が建てられて、今もそれが残っているのは驚きました。

また日本のお城との違いが2つありました。1つ目は山の上に建てられたお城だということです。日本にも山の上に建てられた城はありますが、私がこれまで見たものは平地にあるものが多かったです。ホーエンはドイツ語で「高い」という意味と聞きました。実際にホーエンザルツブルグ城の上から見る街や山の景色は非常に綺麗でした。前方には綺麗な街並みが見え、左手にはアルプス山脈が見えました。

もう一つは日本のお城にある堀がありませんでした。日本では周りに堀が設置されて敵の侵入を防ぐ形になっていますが、ホーエンザルツブルグ城は高い城壁で敵を守っているのかなと思いました。

もう一つ興味をもったのは料理の違いです。オーストリアは多様な民族が住んでいたため、色々な地域の影響を受けた料理があります。今回の海外派遣ではザルツブルグにあるザンクト・ペーター・シュティフツクリナーリウムという世界最古のレストランに行くことが出来ました。前菜がトマトスープで主食がウィナーシュニツェル、デザートにメレンゲが出ました。ウィナーシュニツェルはイタリアの影響を受けた料理で、日本のトンカツのようなものだと思います。他にもドイツ料理に近いエルダプフェルザラートやシュパーゲルという料理を食べて見たかったですが、今回はチャンスがなかったので、日本で食べられるところを探して食べてみたいです。

僕は今回の海外派遣を通して違う文化に色々触れることの楽しさを学びました。ただ一つ悔しかったのは、ドイツ語が話せないので、直接現地の人とコミュニケーションを取る機会が限られていたことです。将来的には色々な言語を喋れるようになるために勉強し、現地の人と交流したいです。



オーストリアでの日々を振り返って

オーストリア派遣団引率 砧小学校 主幹教諭 今野 仁英

青天の霹靂とはまさにこのことでした。

派遣2週間前に急遽決まった引率。荷物の準備はできても、心の準備はすぐには整いません。何より子どもたちと直接顔を合わせるのが出発当日だということに、不安は高まる一方でした。しかし、そんな心配は杞憂に終わりました。気さくに話し掛けてくれる子どもたち。ほっとしたと同時に、有意義な日々となるよう努めようと、決意を新たにしました。

オーストリアは遠いです。成田からザルツブルグにたどり着くまでも、ウィーンから成田への帰路も、波乱の連続でした。ハプニングあり、予定変更ありの毎日。それもまたこの派遣を思い出深いものにし、個々の経験値を上げてくれたように思います。

滞在中は、雄大な景色、中世から残る美しい建造物など、たくさんの素晴らしいものに出会いました。朝、眠い目をこすりながらホテルの部屋のカーテンを開け、遠くにザルツブルグ城が見えたときの、まさに「目の覚めるような」感動は忘れられません。

一番心に残ったのは、学校訪問での子どもたちの姿でした。授業は、先生のドイツ語によって進められます。子どもたちは、言葉の意図を汲み取ろうと一生懸命耳を傾け、示されるもの一つ一つに注目していました。その結果、運動・音楽など、すべての活動を楽しむことができていました。また、現地の生徒に折り紙を教える際、「折る」「広げる」などの作業にオリジナルの擬音をつけながら解説する姿も見られました。現地の生徒は、その音と作業とを一致させ、指示通りに工程を進めていました。言葉が通じなくても、コミュニケーションの手段を模索し、楽しもう、楽しませようとする積極性やチャレンジ精神に、拍手を送りたくなりました。

出発以降、子どもたちの意識は徐々に変わっていききました。平和な日本で暮らしていると、「荷物の置きっぱなし」がなぜダメなのか、その理由を考える機会が少ないです。最初は簡単に荷物を置いて離席する子が多かったのですが、少しずつ現実を理解し、ウィーン中心街見学の頃には、リュックを体から離す子は見られなくなりました。人混みで列から離れない、話をよく聞いて行動するという点についても然りです。「百聞は一見に如かず」。実体験はストレートに子どもたちに響いていたように思います。また、礼儀正しく挨拶をする、他者に迷惑をかけない、自分のことは自分でやる…これらが万国共通だということも、再認識できたのではないのでしょうか。ここでの学びを、在籍する小学校でも是非実践し続け、クラス、学年、全校へと広めていってほしいと思います。

今回、温かくチームに迎えてくださった先生方、教育委員会事務局の皆様、気持ちよく送り出してくださった職場の皆様、一緒に過ごした子どもたち、留守番を頑張った子どもたち、すべての方々に感謝の気持ちを送りたいです。



グローバル化が進む現代における実体験のもつ意義について

オーストリア派遣団引率 桜丘小学校 主任教諭 七尾 めぐみ

今回私たち小学生海外派遣団は、世田谷区の姉妹都市であるオーストリア、ウィーン市のドゥプリング区およびザルツブルクへの訪問を行いました。派遣団の児童は今年5月から10月までの月1回の学習会を経て、自身がこの派遣を通してどのようなことを学びたいのか、を明確にしていくと共に、派遣団というチームとして、日本の文化を伝えるべく歌の練習を重ねてきました。

最初の二日間はザルツブルクに滞在したが、時間や班行動、周りへの配慮に対する意識がまだあまり高められず、教員からの声掛けがあってから動く児童が多く見られました。しかし、ザルツブルクからウィーンへと移り、日数を重ねていくうちに教員の声掛けは減り、その代わりに児童同士の声掛けが増えました。最終日が近くなると、他者からの声掛けがなくとも個々の児童が自身でスケジュールを確認し、動くことができるようになってきました。このような児童の様子から、児童がこの派遣を通して身に付けたものの一つとして、先を見通す力や自主的に行動する力が挙げられます。



私たちは、ザルツブルクやウィーンで色々な歴史的な建造物を見学し、ガイドの方の説明を聞くなかで、他文化への知識を深め、興味・関心を広げていった。その中でも特に児童たちにとって特に貴重な体験になったのが、学校訪問と区長への表敬訪問です。

学校訪問では、音楽・体育の授業を体験し、折り紙の折り方をオーストリアの児童に教えました。音楽の授業では、練習を積んできた「喜びの歌」をドイツ語で現地の児童と一緒に歌ったり、「さくらさくら」を、リコーダーを交えて演奏したりしました。また体育の授業では、サッカーやマット運動などを行いました。折り紙の時間には、英語が必ずしも得意ではない児童もいましたが、それぞれが知っている英語やジェスチャーを一生懸命使ってなんとかコミュニケーションを図り、折り方を伝えていました。試行錯誤しながらも作品ができあがった時には、互いに喜びと達成感を共有していました。

今回の海外派遣を通して児童は直接文化の違いを肌で感じる事ができたようです。デジタル化が進み、ほとんどのことがインターネットで調べられる状況ではありますが、やはり直接、他者とコミュニケーションを取る体験、他の文化の中で過ごした時間は児童一人一人の視野を広げ、文化への理解、他者を尊重する気持ちを深めたように思います。このような経験はグローバル化が進む現代において、他者と共存していくうえで非常に大きな意味をもつと考えられます。

私自身も、「令和5年度 第30回 小学生海外派遣団」に引率として参加させていただき、本当に貴重な経験を積むことができました。なかでも現地の学校の教員の方々と短時間ではありますが、授業や児童の様子などについて話をし、教育に関する相違点や類似点、課題などを知ることができました。このような経験を通して、改めてコミュニケーションツールとしての外国語の重要性を学びました。今後は、私自身も今回の派遣事業を通して学んだことを自校の児童、そして教員に還元し、異文化理解につなげていきたいです。

4年ぶりのオーストリア海外派遣事業

オーストリア団引率 教育指導課指導管理係長 野嶋 陽子

世田谷区では、平成4年（1992年）から、オーストリアウィーン市ドゥプリング区への海外派遣事業を実施しています。

実施にあたっては、各派遣団員が目的意識を持ち、より積極的に参加できるように、知りたいこと、見てきたいことなどテーマを決めました。国際的視野を広めるだけでなく、音楽や音楽家、建物や街並み、生活や文化、学校のことなど、一人ひとりが決めたテーマに沿って自ら学び考える探究的な学びの場とすることも意識しています。

行程としては、「世田谷区－（成田）－（イスタンブール）－（ミュンヘン）－ザルツブルグ－ウィーン－（イスタンブール）－（成田）－世田谷区」と、経由地を含めば3つの国を都市から都市へと移動します。移動中も、飛行機搭乗の待ち時間には、ウクライナ紛争で、日本からヨーロッパへの最短ルートだったロシアの上空を飛べなくなったこと、ザルツブルグからウィーンへの列車移動では駅に改札がないことなど、添乗員の説明が気づきの後押しとなり、様々な発見がありました。

新型コロナウイルス感染症の影響による休止後、4年ぶりの実施でしたが、ニュースで見ていた出来事がどのような影響を及ぼしているのかを考える機会にもなり、派遣団員と一緒に頷くことばかりでした。

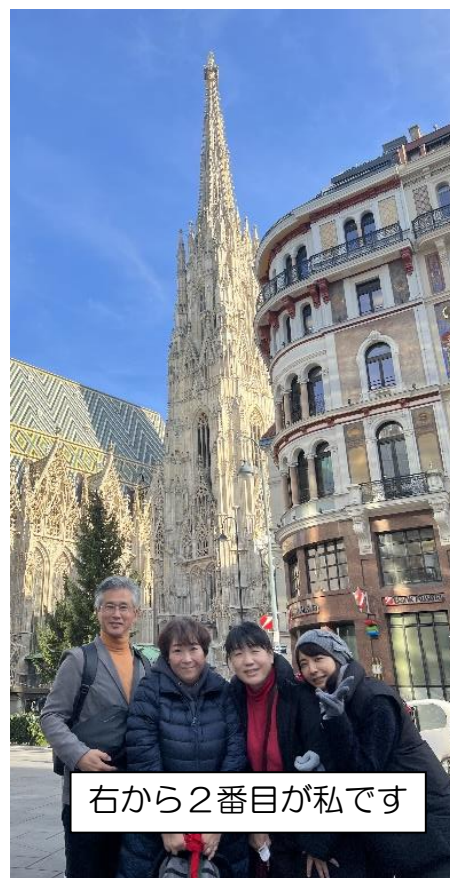
各都市での見学・訪問の4、5日は、いずれの街も美しく、歴史や文化、芸術などを実地で感じ、映像や本では得られない体験ができました。そこに暮らす人々にとっては普通の風景でも、少しでも視点を変える、興味を持って意識するだけで、日本との違いなど様々な気づきがあり、特別なものであることを感じる事ができました。派遣団員は、5感をフル活用して、異なる社会や文化や習慣に触れ、現地ガイドに質問もしながらそれぞれのテーマについての学びを深めました。

引率は、派遣団員をサポートしますが、行動の主体となるのは派遣団員です。親元を離れ、班の仲間と協力しながら、また、現地の人々に助けられながら、見知らぬ環境に向き合う姿は、ほほえましくも頼もしく感じました。この海外派遣の成果は、この報告書のそれぞれのページの中に、また、少し遅くなった派遣団員の表情から感じ取っていただけないかと思えます。

この事業開始から31年が経過し、派遣団員を取り巻く環境も変化しています。

世田谷区には、当時の3倍近く、2万5千人以上（令和6年1月現在）の外国人が暮らし、GIGA スクール構想による1人1台のタブレット型端末の配備と、その基盤となる社会的インフラの整備により、より身近に世界を感じるできるようになりました。

今回の海外派遣がこのメンバーであったこと、共に過ごせたことに感謝するとともに、派遣団員には、海外派遣から戻ってきた今をスタート地点として、実地で感じた気づきを大切に、日常の中の異なる文化や価値観への理解を深め、共生社会の担い手として、この経験を活かしていってほしいと願います。



令和5年度

第30回世田谷区小学生海外派遣事業報告書

(オーストラリア・オーストリア)

| | |
|------|-------------------|
| 発行年月 | 令和6年2月 |
| 発行者 | 世田谷区教育委員会事務局教育指導課 |
| 所在地 | 世田谷区世田谷4-21-27 |
| 電話番号 | 03(5432)2707 |